

第5回清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会

次 第（案）

日時：2023年7月25日（火）14時～15時半（最大16時まで）

場所：清瀬市しあわせ未来センター1階 セミナールーム

1. 前回の議事

- ・第4回基本構想及び基本計画策定委員会議事録案 資料1

2. 議題

報告事項

（1）清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ

- ・第3回ワークショップまとめ 資料2
- ・第4回ワークショップの様子を写真で報告

（2）清瀬小学校教職員意見交換会報告 参考資料1

（3）教育委員会と清瀬小6年生との懇談会報告 参考資料2

協議事項

（4）所要室・面積構成

- ・所要室・面積構成案
- 前回案について追加意見の確認 参考資料3
- 特別支援学級の教室まわり構成案 資料3
- 管理諸室の構成案 資料4

（5）配置計画（グループワーク）

- ・配置計画の仮条件と目標案、グループワークの視点 資料5
- ・配置計画案 資料6
- ・建設スケジュール案 資料7

（6）新しい学校施設づくりの目標（修正案） 資料8

3. 次回の日程調整

- ・第6回策定委員会

□資料

資料 1.清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定第4回策定委員会議事録（案）

資料 2.第三回清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ概要

資料 3.特別支援学級の教室まわりの考え方（案）

資料 4.管理諸室の考え方（案）

資料 5.配置計画/建て替え計画の仮条件と目標（案）、グループワークの視点

資料 6-1. 清瀬新校計画 A 案（南東配置）ブロックプラン

資料 6-2. 清瀬新校計画 A 案（南東配置）建て替え手順イメージ

資料 6-3. 清瀬新校計画 B 案（北東配置）ブロックプラン

資料 6-4. 清瀬新校計画 B 案（北東配置）建て替え手順イメージ

資料 6-5. 清瀬新校計画 C 案（北西配置）ブロックプラン

資料 6-6. 清瀬新校計画 C 案（北西配置）建て替え手順イメージ

資料 7.建設スケジュールの検討

資料 8.新しい学校施設づくりの目標（案）

参考資料 1.第1回清瀬小学校教職員意見交換会議事録（案）

参考資料 2.清瀬小学校6年生児童による新校舎で大切にしたいこと調査

参考資料 3-1.施設構成（案）ダイヤグラム （前回資料 4-2）

参考資料 3-2.教室まわりの構成について （前回資料 4-3）

参考資料 3-3.特別支援学級の配置構成について （前回資料 4-4）

参考資料 3-4.特別教室の構成について 理科室 （前回資料 4-5）

参考資料 3-5.特別教室の構成について 図工室 （前回資料 4-6）

参考資料 3-6.特別教室の構成について 家庭科室 （前回資料 4-7）

参考資料 3-7.特別教室の構成について 音楽室 （前回資料 4-8）

参考資料 3-8.体育館の構成について （前回資料 4-9）

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定 第4回策定委員会 議事録（案）	
日 時)	2023年6月19日（木） 15時半～17時
出席者)	策定委員 長澤委員長 谷口委員 相蘇委員 佐藤委員 笠原委員 中越委員 侯野委員 高野委員 江村委員 大島委員 事務局 南部部長、北平課長、太田係長、下山係長、若野主事、野島、島田、根岸（記録）
欠席者)	齋藤副委員長 宮本委員
資料)	第4回策定委員会次第案
資料 1	第3回策定委員会議事録案
資料 2	小中のつながりを活かした新しい学校の教育的可能性について
資料 3	計画条件等について（修正案）
資料 4－1	所要室・面積構成案
資料 4－2	施設構成案ダイアグラム
資料 4－3	教室・教室まわりについて
資料 4－4	所要室・面積構成案
資料 4－4	特別支援学級の配置構成について
資料 4－5～8	特別教室の構成について
資料 4－9	体育館と特別教室の構成について
資料 5	配置計画案
参考資料 1	小中一貫校タイプ
参考資料 2	既存校舎配置

1. 前回議事録の確認

- ・議事録に誤りがあった場合は、後日修正とする。

2. 議題

長澤委員長

- ・学校運営に見合った学校施設のあり方や地域にとっての学校施設を考えていくこととなる。清瀬市では委員会と並行して市民ワークショップが行われており、皆さんの声が広く寄せられている。そういった声も大事にしながら、進めていきたい。
- ・先日、中国のシンポジウムに招かれて、学校づくりの関係者の発表や意見を聞く機会があった。中国では四川大地震の復興が契機となり、ただ復興するのではなく、学校教育の変革を進める形で学校施設整備が行われるようになっている。デジタル化を始めとして様々な取り組みがなされている。当初は日本の学校づくりに学ぼうということで始まったが、今は日本以上の取組が行われている事例もある。清瀬市の学校づくりが最先端な事例として情報発信できるようになればと思っている。

報告事項

(1) 第3回清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ *概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・市民ワークショップは模型を使いながら、現状の課題（あら）、新しい学校でも大事に継承したいもの（たから）、将来に向けた発想（みらい）の3つの「ら」について意見があったように思う。
- ・策定委員会においてもこれから説明がある諸条件等を踏まえ、様々な観点からご意見いただきたい。

協議事項

(2) 小中のつながりを活かした新しい学校の教育的可能性について *概要を事務局より報告

事務局

- ・資料2、A4縦の資料をご覧ください。

これまでの策定委員会やワークショップ、教職員アンケートを通して小中の連携や一貫についてご意見が出ています。

この度の計画の特徴である小学校と中学校が隣接している教育環境を積極的に活かすことを施設面で目指す場合、小中が隣り合った環境の現状の評価と課題や、隣り合うことを活かした際に、教育面や運営面、地域との関係ではどのようなことが可能となりそうか、学校、保護者、地域の立場から各委員よりご意見をいただければと思います。

資料の後段に記載の内容は、本日は、単なる参考資料としてとらえてください。

具体的には小中連携教育や小中一貫教育という議論も必要となりますので、少し説明いたします。

小中連携教育については、小・中の教員が情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育的取り組みと言えます。

また、小中一貫教育については、9年間の一貫した教育目標を設定します。

資料の後半部分には、色んな形態が書かれていますが、ここに記載のいずれかの学校形態を、この場で選んでほしいということではなく、この立地環境を生かした学校づくりを考える場合に、小中のつながりを活かした教育活動を行っていく可能性ということについてここで考える必要があると思います。そしてその議論は、これからの中学校教育の展望を拓くとともに、新しい学校施設を考える際の糧にもなるものだと思います。

本日の議論は、資料の前段部分に関しまして、学校、保護者、地域の立場から各委員よりご意見をいただければと思います。

長澤委員長

- ・小中一貫教育を考えることは地域との関わりを考えることにもつながるので、そういう視点でもご意見いただきたい。

事務局

- ・小中一貫教育とは9年間を一貫した教育目標のもとにカリキュラムを編成し教育活動を実施していくことと言える。小中が隣り合う施設環境をどのように活かすかということを教育活動の取り組みを視野に入れてどのような可能性があるかご意見をいただきたい。

長澤委員長

- ・今回の計画の大きな条件として小中が隣り合う敷地にある。
- ・教育面では、施設を一体にする場合も、別にする場合でも、小中一貫教育に取り組むということはあるが、今度の隣り合う施設環境をどのように活かせるか、現状の活動状況を踏まえて教育面からのご意見をお聞きしたい。

A委員

- ・策定委員会で小中一貫教育にすべきかを議論することが本当によいのか疑問に思う。連携教育と一貫教育は大きく違うので、より多くの人を巻き込んで検討する必要があるだろう。
- ・中1ギャップの解消ができる反面、6年生がリーダーシップを発揮できない面もある。
- ・一貫教育に取り組むことが決まったのであれば、施設は分離型より一体型の方が取組みやすいだろう。
- ・一貫教育に取り組む際も、この地域は可能だが、この地域は難しい等、地域性が問われる。子どもたちが選べる環境なども考えていく必要がある。中学校は選択制だが、小学校も選択制にするのか等、市としてどの様に考えているかも合わせて考えていく必要がある。策定委員会だけでは決められない内容だ。

B委員

- ・この場で結論は出せないだろう。この策定委員会は校舎について夢を膨らまして話していく会だと思っている。100年使える校舎という話もあったように、一貫でも連携でも、施設一体でも分離でも、長年使えるような校舎を考えていくことが大事なのではないか。
- ・体育館の小中共同利用等、今でも工夫をすれば実施できるような活動が行いやすい施設にしておいた方がよいと考える。
- ・例えば、3年生の理科室利用は3学期に多くなる。中学校の施設を共用できるようにしておく等の工夫をすることで、特別教室の共有は可能性がありそうだ。この先どんな取り組みになっても利用しやすい施設が望ましい。

C委員

- ・小中のつながりを活かした教育は学習指導要領にも示されているので、今でも行う必要があると思っている。
- ・清瀬中は第八小を含む学区範囲となっている。施設が隣り合うことを長所として取り入れていくことは大切だが、清瀬中学校区内の一貫教育・連携教育を考える必要がある。単に2校の課題ではない。全市的に考える必要がある。

- ・施設を小中で共用していくことは、文科省の基準（跳び箱、合奏、理科実験等の備品）をどのようにクリアしていくのかが課題である。教育活動や成長過程が違う小中で共用することは難しい。子にとって負担になるのではなく、子どもファーストで教育を行える環境が必要である。

長澤委員長

- ・教育活動という観点でご意見伺えた。備品や教具の違い、収納や寸法、安全性等を確保する必要があると理解したうえで、仕立てていく必要はある。

D委員

- ・一貫教育となった場合、9年間を1人の校長でみるのは大変かと思う。
- ・一体的な校舎としてわざわざ繋げる必要はない。
- ・行事は別なのか、一緒に行うのか等も不明確である。体格の異なる子供が一斉に行うのかなどの課題もあるのではないか。

E委員

- ・小中一貫に取り組む場合に八小の児童は、清小清中の9年間の固定化された人間関係の残り3年間だけと一緒に過ごすこととなる。課題がありそうだ。
- ・小学生が中学生を怖がらないかなど心配している。ケアも必要になると思う。

F委員

- ・毎年PTAで学区外の保護者向けに説明会を行っている。一貫校は響きが良いと思うが、一貫校に途中から入ることに負担があるだろう。スクールカウンセラーも学校にはいるが、一貫校の場合、途中から入学する子にとってかなり弊害が生じそうである。様々な課題を抱えて学区外から入学する場合など、一貫校は小中別々の学校である場合に比べ精神面への影響が大きいだろう。
- ・小中が隣接しているので、活動場所は共有しやすいだろう。しかし特別支援学級もある中でどのような取り組みになるのか不透明である。学校の特徴を踏まえて議論できるようにしてほしい。
- ・小中一貫教育に取り組むかを諮る議論として考えると、策定委員会は時間も回数も少ない。

G委員

- ・清小・八小の統合の中で、清中との一貫教育への取組の議論がでてきたように思う。
- ・小中一貫教育のメリットが良くわからない。どんな場面で行うのかもわからない。
- ・以前は清中の体育館やプールを借りるということはあった。そういうった施設の共用はできそうだ。

H委員

- ・小中一貫について、正直よくわからない。
- ・策定委員会の目的は、学校施設をどのようにつくるかというところにあった。運営面を策定委員会で決めるというよりは、目標にある小中連携しやすいということで意見交換すればよいと思う。

I委員

- ・ワークショップの中で小中連携に関する意見があったため、この場では、その意見について、皆さんがどう考えるかを出し合えるとよい。小中一貫教育を市全体でどうしていくかは別の場で検討する内容である。
- ・施設を共用することでメリットもデメリットもあるだろう。自由に行き来できることがよいのか、共有できる場所があるとよいのかなど、本日の意見を活かしていけるとよい。
- ・小中連携はこれまで進めてきているので、今後も深めていければと思う。

(3) 計画面積と所要室・面積構成 * 概要を事務局より報告

事務局

- ・仮校舎の建設は、多額の費用が掛かる。清瀬市の財政状況を考えると大きな負担である。また仮校舎を作らなければ、その分、他の市民サービスの充実に向けられる。
- ・仮校舎を建設する場合、引っ越しをすることとなり、その負担も懸念される。
- ・清小と清中が隣接している地理的環境を考慮し、敷地を一体的に捉えて、将来的な清中の建て替え位置も想定し、整備していく方針としたい。

長澤委員長

- ・教育活動と関わる内容なので、部屋のあり方については教職員の方たちにも聞いていく必要がある。

B委員

- ・特別支援学級は児童の在籍数に応じて教員配置される。そのため情緒学級の場合は複雑な複式となっている。できる限り1か所にまとまっていると運営は難しい。理想的ではない運営ではあると思うが、各学年の教室ユニットに分散する構成は実際の運営では難しいだろう。
- ・特別支援学級の各学年の教室ユニットの近くへの配置は理想であるが、その分、教員の配置も必要である。

A委員

- ・情緒障害の特別支援学級の場合、4教室あるとよい。刺激をし合わない環境が必要である。
- ・現校舎では更衣室が課題となっている。低学年でも男女別に更衣室が必要である。

事務局

- ・2学年に1か所、20m²程度の更衣室を男女別に設ける案としている。

笠原委員

- ・児童会の放送を含むと記載がある。一般的な放送室と捉えてよいか。

事務局

- ・機材もコンパクトになっておりモバイル化も進んでいるので、放送コーナーがある児童会室としてはどうかと提案したい。

B委員

- ・資料4－2に示されている開放利用のエリアについて、家庭科室を地域開放するのであれば、どの程度利用可能とするか、衛生面や安全面、運営面の検討が必要である。
- ・震災時に避難所となった家庭科室を学校再開の折に避難者が明け渡してくれないという課題もあったと聞く。避難所として利用する場合の運営面の課題も検討できるとよい。

長澤委員長

- ・地域や学校、PTAの活動の特色を踏まえて清瀬小のあり方を検討できればよい。
- ・今回の資料では面積や室構成のイメージを持っていただければと思う。

A委員

- ・例えば階段ホールを2か所にする等も可能か確認したい。

事務局

- ・面積構成段階では他のスペースに割り当てている面積を調整して階段ホールに充てる面積を生み出す必要がある。廊下や階段等で総面積の25%を見込んでいるが、その面積の中からプランニングで作り出すことを検討していくことも考えられる。

長澤委員長

- ・教育活動の中でこういった場所が必要だという強い要望があれば可能となっていくだろう。
- ・先生方にも相談しながら、決めていくこととなる。
- ・ご覧いただきいて、気が付いたことがあれば次回の策定委員会でご発言いただきたい。

(4) 配置計画 *概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・どういった手順で建設されるのかこの資料ではわからない。例えば検討案①では、既存小学校を解体すれば、中学校は校庭を利用できるが、工事中は中学校校庭が確保できないことが課題と捉えてよい。

事務局

- ・その通りである。

A委員

- ・工事の段階ごとにどのような配置となるか示してほしい。
- ・工期も示してほしい。教育活動がどのような期間、どのような場所を使えるか把握したい。

長澤委員長

- ・どのように工事区画をして安全性を確保するか、どんな期間で実施するか等を示してほしい。

3. 次回の日程調整

事務局

- ・第5回策定委員会は後日調整とさせていただきたい。
- ・第4回市民ワークショップは7月22日（土）開催予定なので、ぜひ参加いただきたい。

以上

第三回 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ 新しい学校施設の夢を語り合おう

ワークショップの概要

日 時：2023年6月17日（土）10:00～12:00
会 場：清瀬市役所 研修室1・2

テマ：「部屋の構成や校舎配置について話し合う」

内 容：当団は24名の参加があり、4グループに分かれて、模型を使いながら意見交換をしました。
新しい学校でやりたい活動をするために、どんな部屋や場所が必要か
周辺施設とのつながりや関係はどうあるとよいか、例えば小中が同じ場所にあることや
隣に市役所があることを活かして、お互いの施設を共用したり、地域開放したり、
避難所としたりする場合のアイデアを話し合い、共有しました。



各グループの主な意見をまとめました。

チーム みんなの運動場

- ・地域の方たちも利用できる、みんなの運動場をつくる
- ・小さな中庭をつくって、小中の交流ができる場所をつくる
- ・校庭は広く緑で囲む、南側がよし、ナイター設備がほしい
- ・ベンチがほしい、人工芝
- ・コの字型の校舎で互いにみられる環境
- ・小中の校庭を一体的にすることで広さを確保する
- ・避難所にはプールはあつたほうがよい
- ・校舎を固める 教員の交流、給食の移動
- ・その後の建て替え計画を考えて仮設校舎もありなのでは

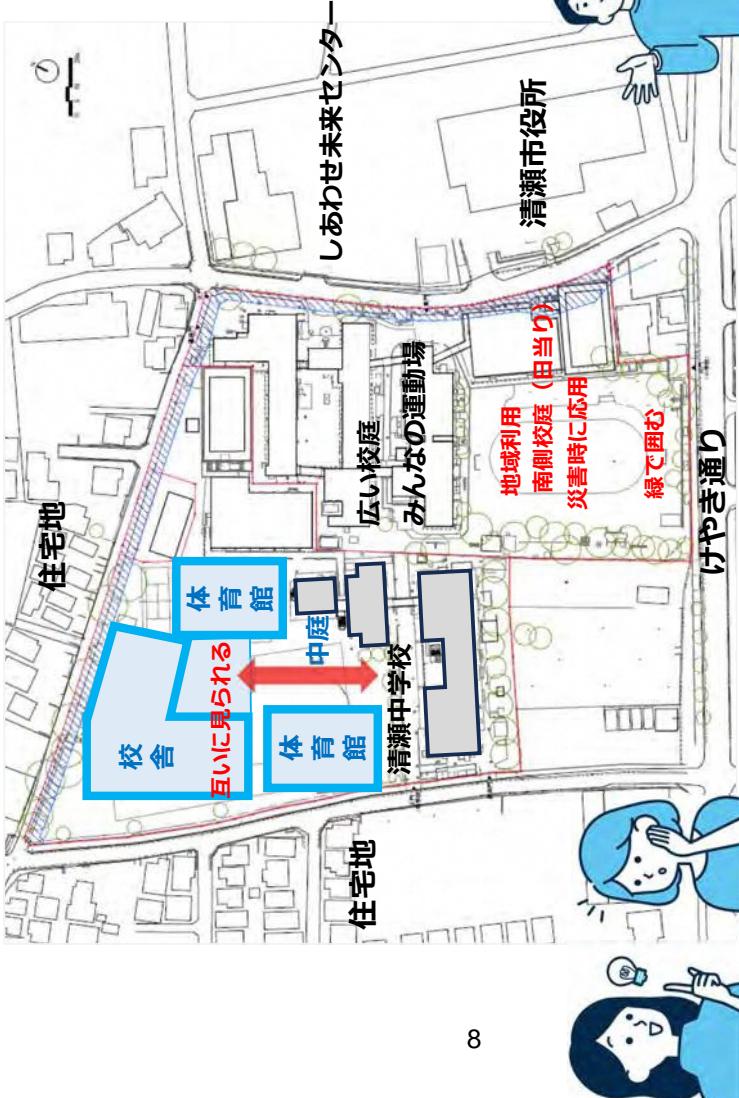
チーム サイコーな学校！



- ・採光を確保できる南向きの校舎が望ましい
- ・中学校と渡り廊下でつなぎ、連携できるとい
- ・校庭に日影が必要
- ・救急車両の動線や北側通路の通学路の安全性の確保が必要
- ・小学生の用具室の横に体育館の木は残したい
- ・体育館の上もしくは地下にプール
- ・廊下を広くとれるとよい
- ・イベント利用などを考慮し体育館は小中で分けたい
- ・仮設校舎なしでどうやって建て替えるのか
- ・工事期間の目途を示してほしい

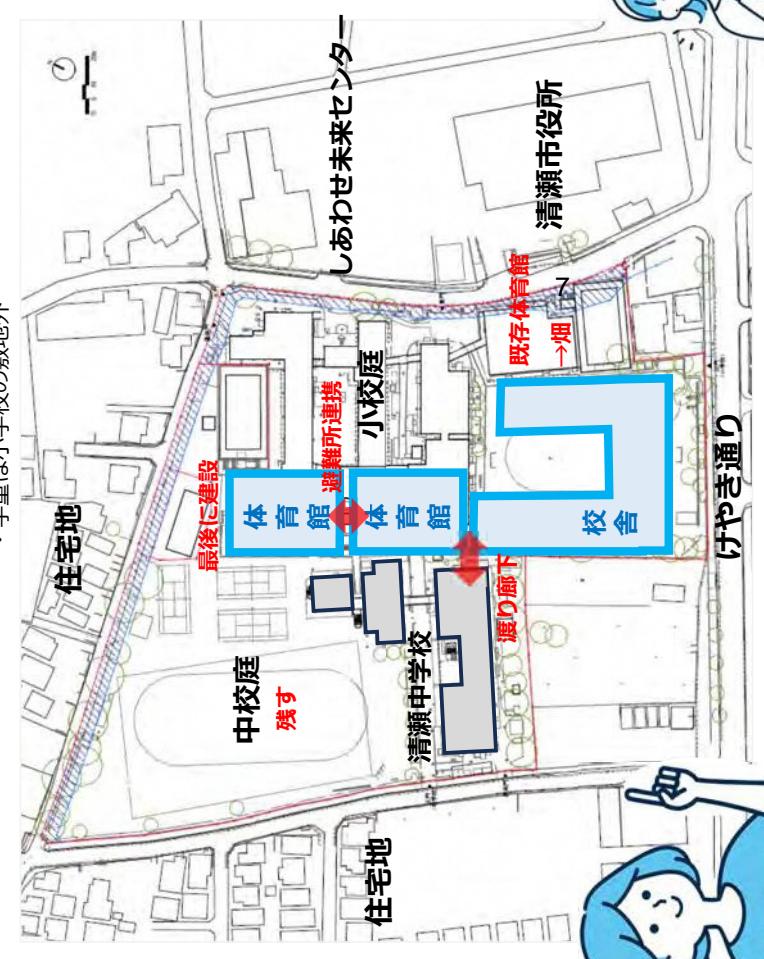
チーム 「部屋の構成や校舎配置について話し合う」

- ・当団は24名の参加があり、4グループに分かれて、模型を使いながら意見交換をしました。
- ・新しい学校でやりたい活動をするために、どんな部屋や場所が必要か
- ・周辺施設とのつながりや関係はどうあるとよいか、例えば小中が同じ場所にあることや
- ・隣に市役所があることを活かして、お互いの施設を共用したり、地域開放したり、
避難所としたりする場合のアイデアを話し合い、共有しました。



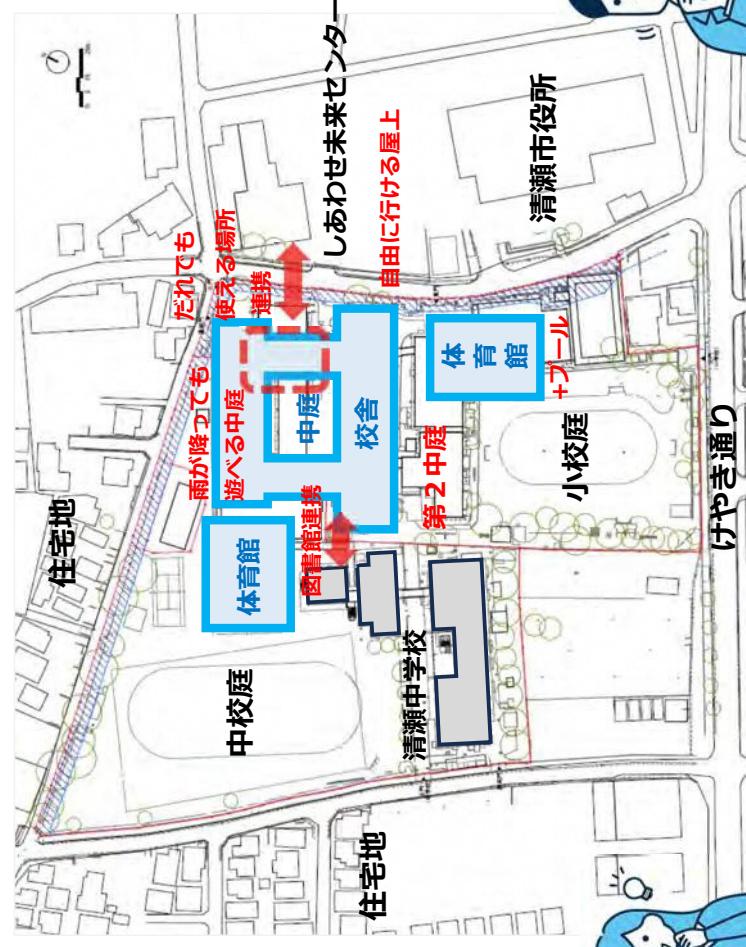
チーム 小学生も中学生も一緒に学ぼう

- ・小中の図書室や職員室、給食室は一体的にあるとよい
職員室は交流のため、中学校に間借りしてもよさそうだ
- ・小中の校舎を渡り廊下でつなぐ
・小中の時間割が違うため、体育館や校庭の共有が課題
・体育館の工事は授業で使えるように最後に取り掛かる
- ・体育館を隣接して避難所機能を高める
・工事中の小学生の遊び場がない、
・特別支障の小教室は廊下をはさんで2クラスを1クラスにできる構成がよい
- ・マンホールトイレが必要
- ・小学校体育館があつた場所に烟を設ける、プールの建設が必要になつた場合は煙の場所に建設する
必要になつた場合は煙の場所に建設する
・学童(は)小学校の敷地外



チーム けやき

- ・仮設なしで小学校の校庭に建てるごと、建設中の校庭の確保ができる、高層になるので環境がよくなれる。
- ・中学校の校庭に建てるごと、住宅地が近いので建物高さや音等の配慮が必要になる。
- ・図書館は小中一緒の場所にして連携しやすい構成にする、ただエリアを分けるなどの活動に応じた配慮が必要。
- ・中庭は雨の日も外で活動できるよう光の入る屋根をかけるつくつたりして、第2中庭にする
- ・誰でも利用できる室をしあわせ未来センターに面してつくり、連携しやすい配置にする(子育て相談・不登校相談等)
- ・校舎の近くに遊具をおいたり、低学年が遊べるような場所をつくつたりして、第2中庭にする
- ・体育館に屋内プール(地下・屋上)



第3回ワークショップを通した配置計画の意見要望まとめ

建物配置・形状

- ・北側住宅地への配慮（高さ・音等）
- ・採光の確保
- ・広い廊下
- ・雨の日でも活動できる半屋外スペース（中庭）

小中連携

- ・教員の交流（職員室のつながり）
- ・図書館を小中一緒の場所に。リラックスできるスペース
- ・中庭など小中の交流ができる場所

体育館の配置等

- ・隣接することで避難所として連携できる
- ・行事を考慮して小中で場所を分けたい
- ・屋上/地下プール

地域連携・開放

- ・しあわせ未来センターの向かいに誰でも利用できる場所

校庭の位置や広さ

- ・日当たりを考慮し南側に開いた校庭
- ・校庭に日影必要
- ・中学校校庭を残す
- ・地域や災害時も利用できる広い校庭
- ・校舎の近くに低学年の遊び場

残したいもの/大切にしたいこと

- ・小学校校庭北西にあるイチョウの木
- ・畑

安全対策

- ・救急車両の寄り付き、動線
- ・通学路の安全対策（歩道整備）

建て替え手順

- ・工事中の遊び場、校庭確保
- ・工事中も体育館が使える
- ・仮設校舎なしの建て替え方法
- ・工事期間の目途

特別支援学級の教室まわりの考え方（案）

□教室まわりの考え方

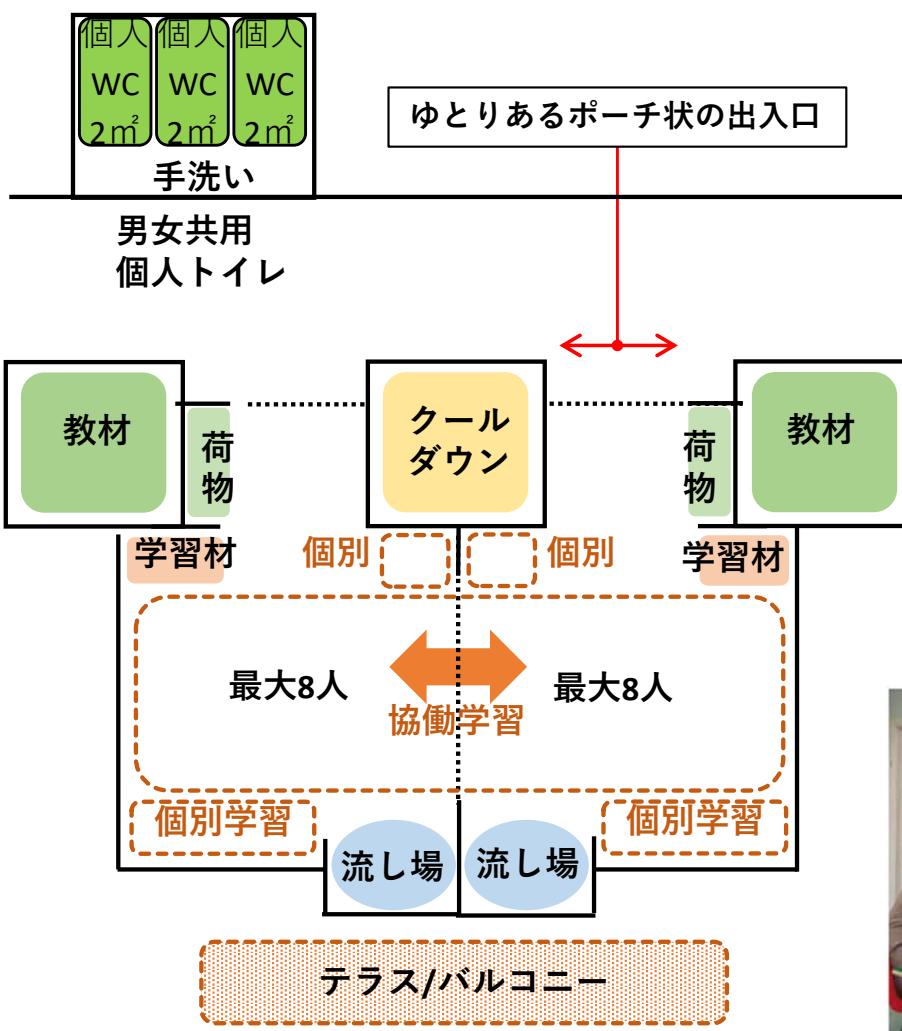
- ・実態や人数の増減に応じ、教育環境を都度整えられる柔軟性を確保する

→前回のB案（2学年ごとに配置）をベースとして通常学級との行き来もしやすい配置とする

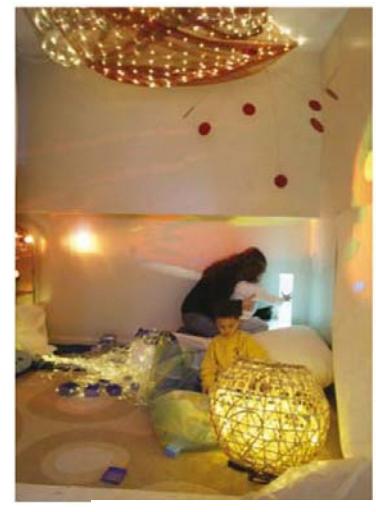
- ・心身の発達段階に応じた設えとする
- ・出入口をポーチ状にするなど、安全面に配慮する
- ・トイレは家庭と同様の個別トイレとし男女兼用で使う
- ・次に示す行為や活動に応じた構成要素で教室づくりを行う

構成要素

- ・集中して取り組める個別学習コーナー
- ・2クラス合同も可能な協働学習スペース
- ・児童生徒の持ち物や学習材を整理整頓できる収納場所/教材庫
- ・学びの手順が分かる学習材コーナー
- ・体格差に配慮した流し場
- ・天候に関わらず活動できるテラス・バルコニー
- ・自ら落ち着けるクールダウンルーム など



教室まわりの構成案 ダイヤグラム
B案（2学年ごとに配置の場合）



クールダウンルームの事例※



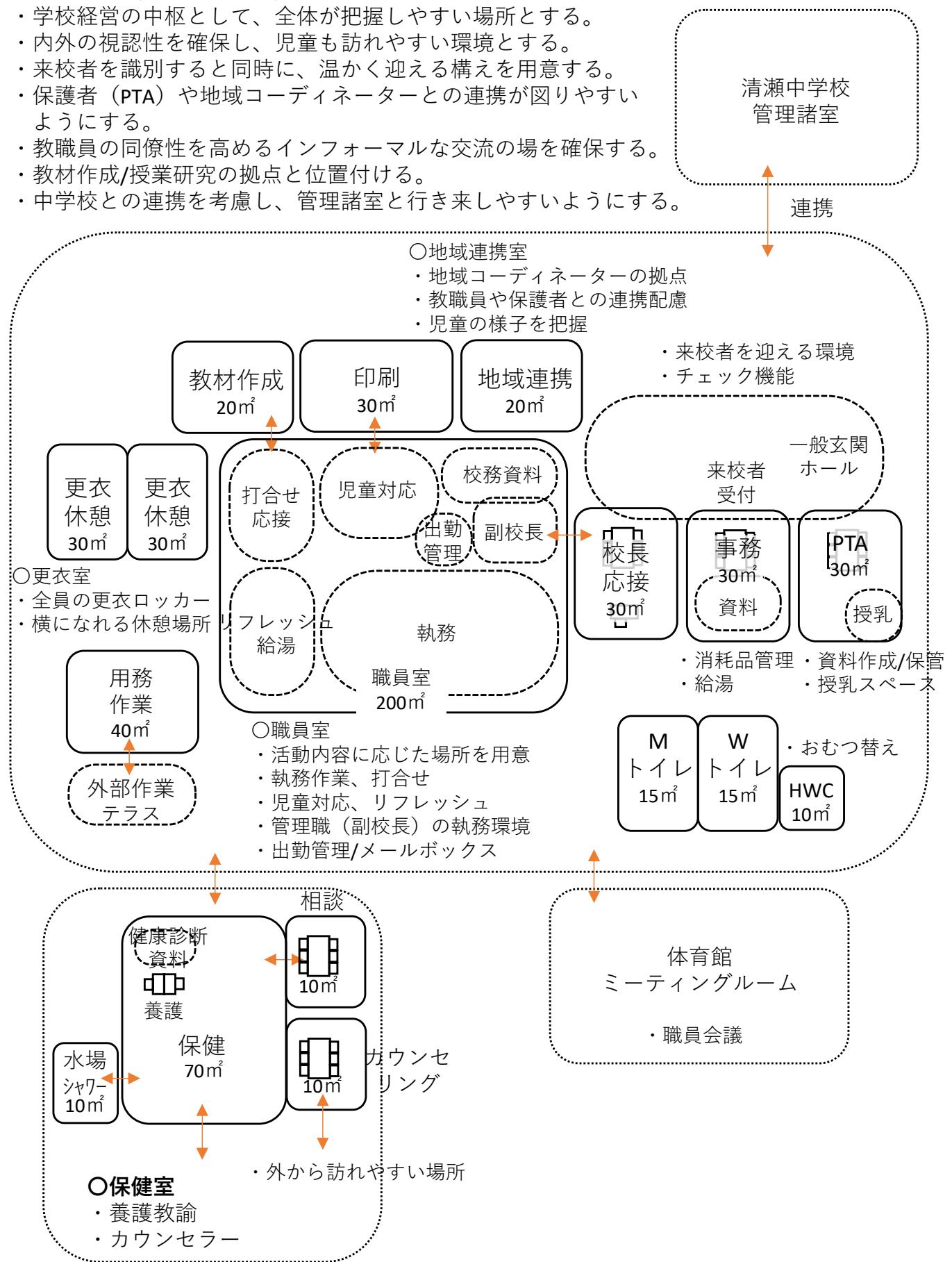
協働学習と個別学習の場が
それぞれ整った環境の事例※

※School bulletin 102 UK

管理諸室の考え方（案）

□管理諸室（職員コモンズ）の考え方

- ・学校経営の中核として、全体が把握しやすい場所とする。
- ・内外の視認性を確保し、児童も訪れやすい環境とする。
- ・来校者を識別すると同時に、温かく迎える構えを用意する。
- ・保護者（PTA）や地域コーディネーターとの連携が図りやすいようにする。
- ・教職員の同僚性を高めるインフォーマルな交流の場を確保する。
- ・教材作成/授業研究の拠点と位置付ける。
- ・中学校との連携を考慮し、管理諸室と行き来しやすいようにする。



配置計画/建て替え計画の仮条件と目標（案）

1. 校地条件（再掲）

- ・東側及び北側道路を拡幅する。
- ・小学校と中学校の敷地は一体であるものとする。

→小学校と中学校の間には敷地境界線はないものとして新校舎の配置等を検討する

- ・現在の第2・第3学童クラブ施設（旧コミュニティハウス）は新しい学童クラブ施設が完成した後は別の用途に転用する。

2. 建設条件（再掲）

- ・仮設校舎は作らない。
- ・令和11年4月に新校舎として開校できるように、工事を完了する。
- ・将来、中学校を建て替えた後の配置を踏まえた新校舎の配置・構成とする。

3. 配置計画/建て替え計画の仮条件

○建物

- ・3階建て以下とする。
- ・体育館の建物高さは12m程度（校舎3階建ての高さと同等）とする。

○校庭

- ・小学校は150mトラック、中学校は200mトラックを敷ける広さを確保する。
- ・テニスコートは2面確保する。

○工事中の教育環境

- ・原則として、小中それぞれの体育館は工事中も利用できるようにする。

4. 配置計画の目標（案）

○アプローチ

- ・正門は利用者が分かりやすい位置とし、安全面に配慮してゆとりを確保する。
- ・児童生徒が共用可能なアプローチとする。

○既存樹木等

- ・ワークショップで指摘された小学校の校庭西側にあるイチョウなど、既存樹木をできる限り残して計画に活かす。

○校舎等

- ・中庭等を設けることにより、自然通風・採光に配慮する。

- ・管理諸室から校庭やアプローチの視認性を確保する。
- ・校舎と校庭は行き来しやすい配置とする。

○小中校舎の接続

- ・小中の校舎をつなぎ、小中連携活動が日常的に行いやさいようにする。

5. 配置計画案について

○A案（南東配置）

利点

- ・小中校舎の前で東西をつなぐ一体的なアプローチ空間が整備できる。
- ・小中の校舎が隣接するため接続しやすい。管理諸室等について連携しやすい配置ができる。
- ・市役所通り側に図書館等を配置することで地域とのつながりをつくることができる。

課題

- ・南東隣地にある住宅に対して圧迫感を緩和するなどの配慮が必要となる。
- ・小中の体育館は離れた配置となるため、連携した使い方は難しい。
- ・2期工事となるため工事期間が長い。その間、校庭が使えない。

○B案（北東配置）

利点

- ・小中校舎の前で東西をつなぐ一体的なアプローチ空間が整備できる。
- ・中学校の特別教室/図書棟と新校舎を連携した使い方ができる。
- ・建て替え中も校庭を利用できる。

課題

- ・北側隣地に対して日影等の配慮が必要となる。
- ・建て替え手順上、小中の体育館は離れた配置となるため、連携した使い方は難しい。
- ・2期工事となるため工事期間が長い。給食の運搬を含めて工事中の動線確保に工夫を要する。

○C案（北西配置）

利点

- ・工事期間が短い。
- ・小中の体育館の共用が図りやすい。

課題

- ・北側隣地に対して日影等の配慮が必要となる。
- ・建設用地が整形ではないため、建物の配置構成に工夫を要する。
- ・南側や東側から登校する児童は北側まで回ってこなければならず、また旧コミュニティハウスがあるためアプローチの視認性に工夫を要する。
- ・将来、中学校校舎を東側に建て替える場合は体育館が遠くなる可能性が高い。
- ・建て替え中、中学校の校庭が使えないため、体育や部活動の活動場所を別に確保する必要がある。

配置計画/建て替え計画 グループワークの視点

配置計画/建て替え計画について、2グループに分かれて意見要望について話し合っていただきます。話し合いの結果はグループごとに発表していただきます。

新しい学校施設づくりの目標から【学び】【生活】【地域】【安全】と【工事中の教育環境】について、配置計画・建て替え計画における話し合いの視点を例示します。

この枠組みに限らず、大事にしたいことや課題についてご意見をお願いします。

【学び】

- ・小中連携活動（教職員・児童生徒・保護者・地域住民）と小中校舎のつながり
- ・校庭配置（小中それぞれの校庭、遊具スペース、部活動の活動スペースなど）
- ・菜園などの屋外教育環境

【生活】

- ・自然採光・自然通風と各階構成
- ・給食施設の配置と動線
- ・学童クラブの配置と学校施設利用

【地域】

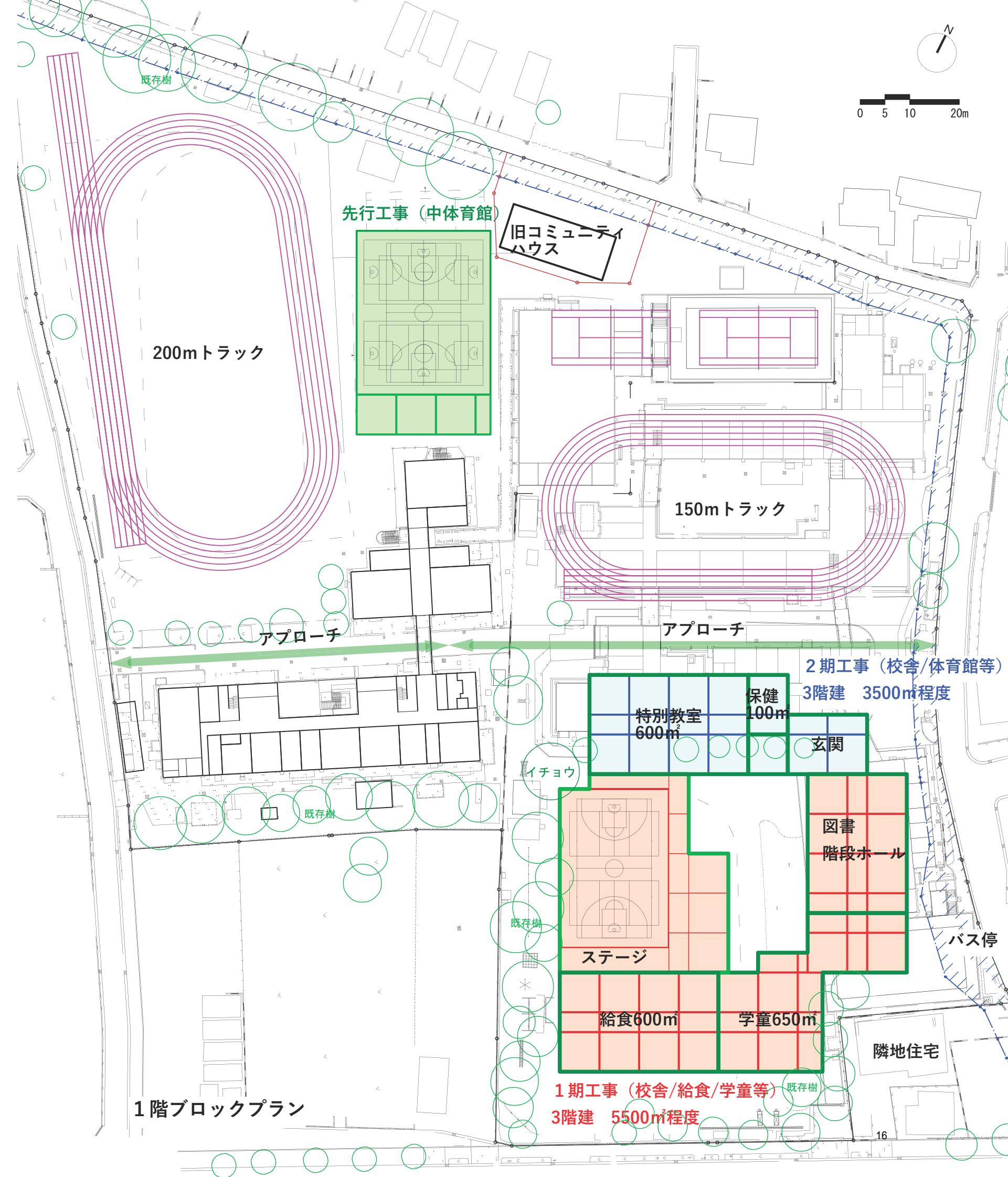
- ・記念樹や記念碑など大切にしたいものや場所
- ・市役所通りの街並み、景観づくり
- ・周辺住宅地と校舎等の建物配置
- ・地域開放施設の配置と外部からのアプローチ
- ・市役所やしあわせ未来センターと学校施設（地域開放施設）の連携

【安全】

- ・登下校方向・アプローチの視認性など
- ・地域の避難所としてのあり方（体育館、校庭、避難者受け入れ動線など）

【工事中の教育環境】

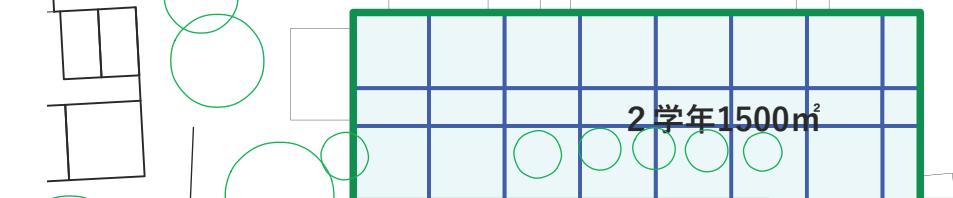
- ・建て替え手順の課題、工事期間
- ・建て替え手順の各段階の動線計画など安全対策や校庭利用など教育環境の配慮



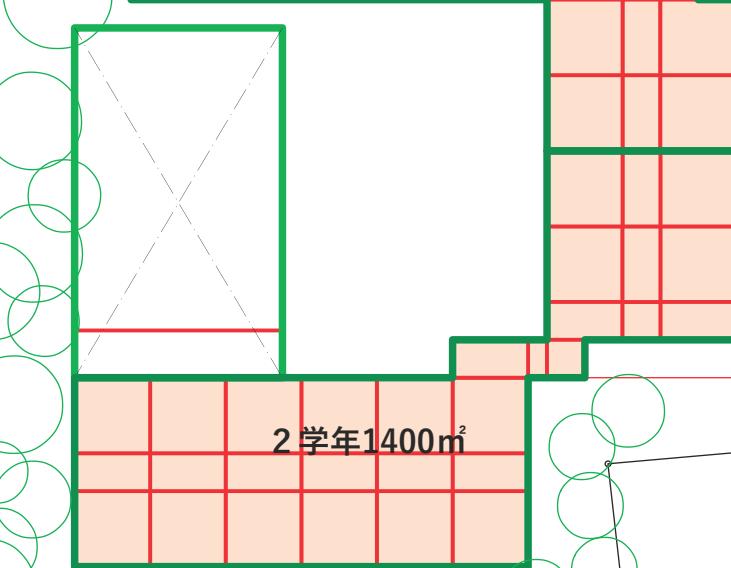
第5回清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会 資料6-1

清瀬新校計画 A案（南東配置） ブロックプラン

230725
1/800

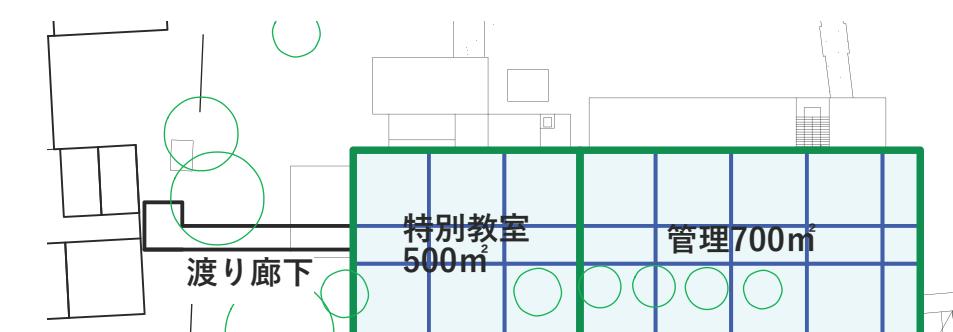


2学年1500m²

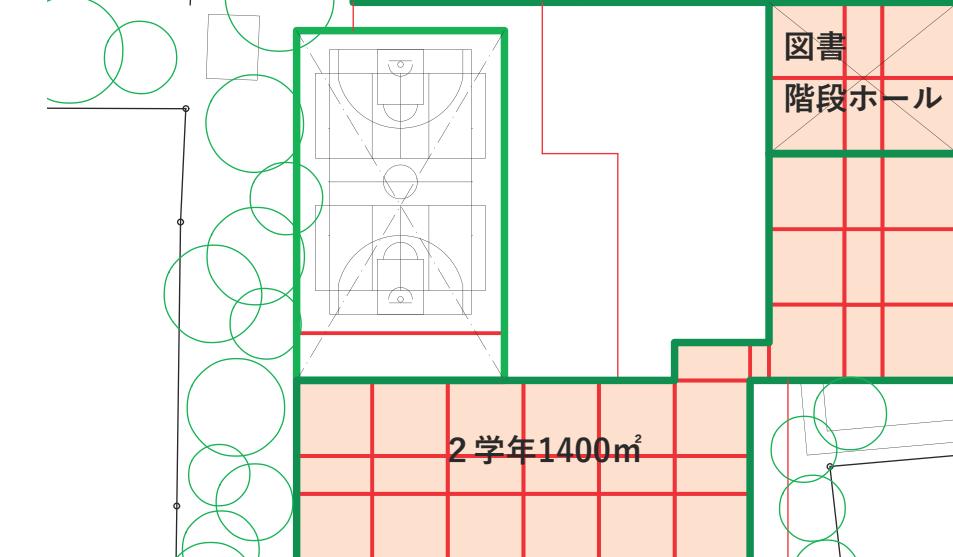


2学年1400n

3階ブロックプラン



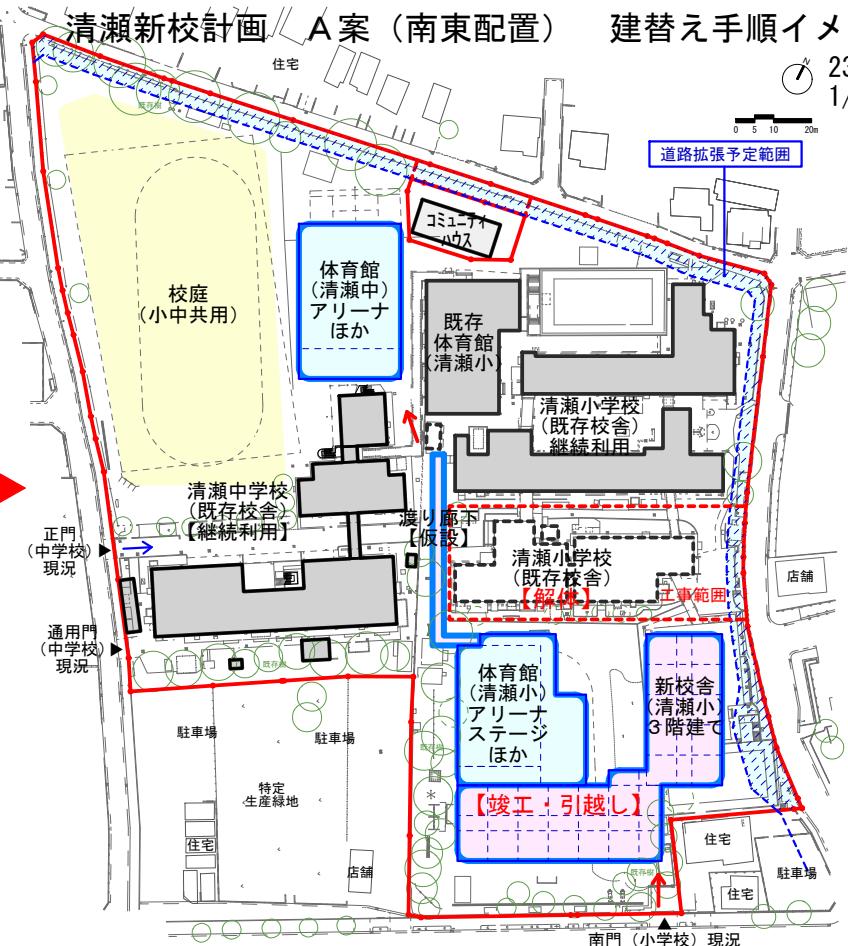
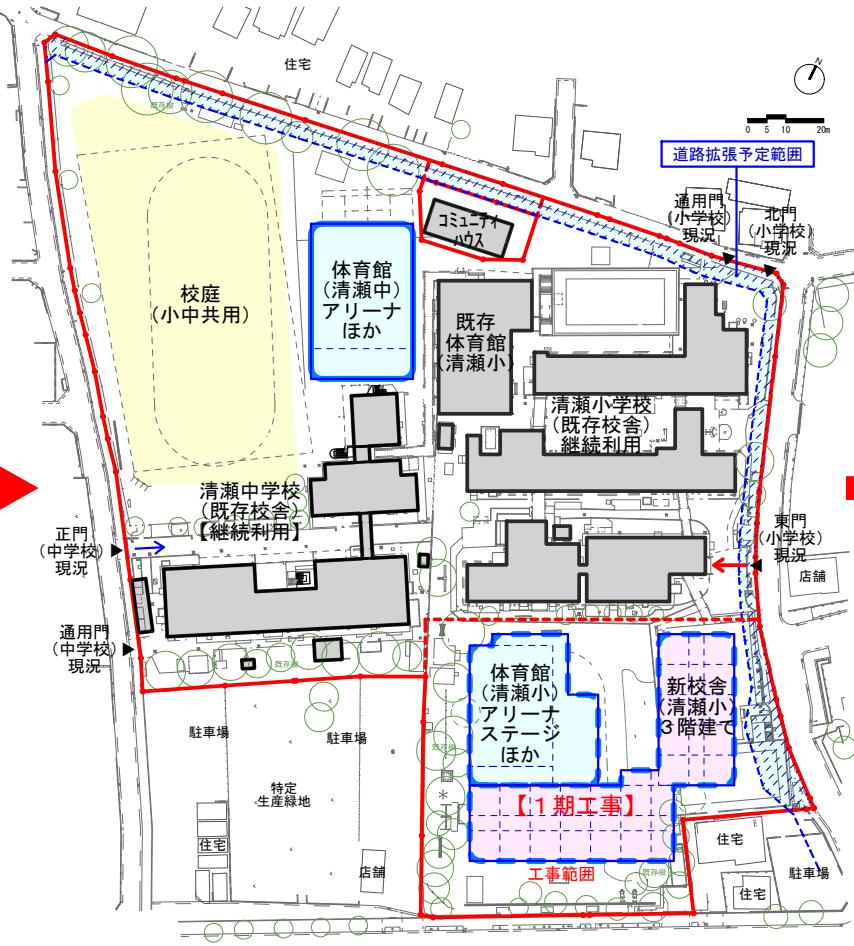
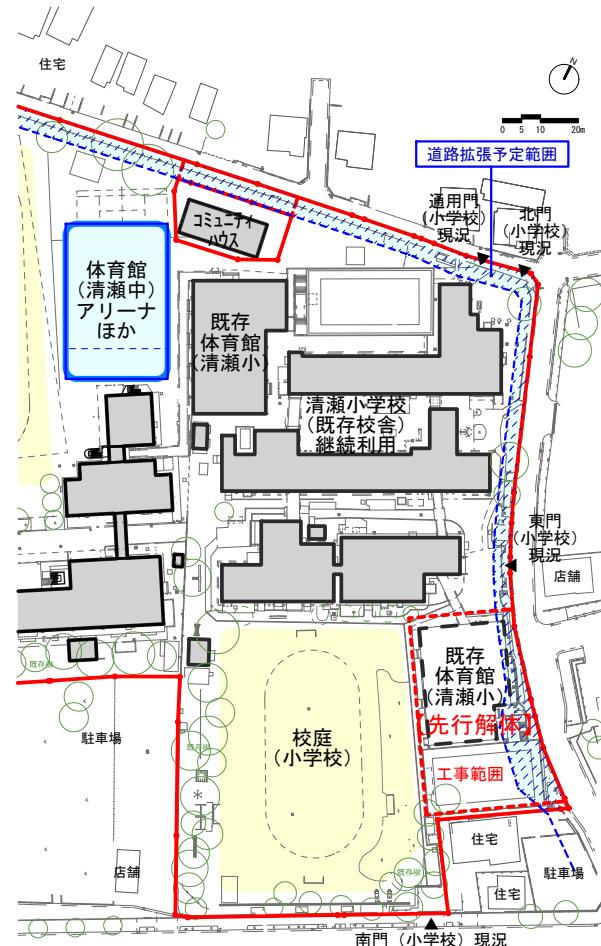
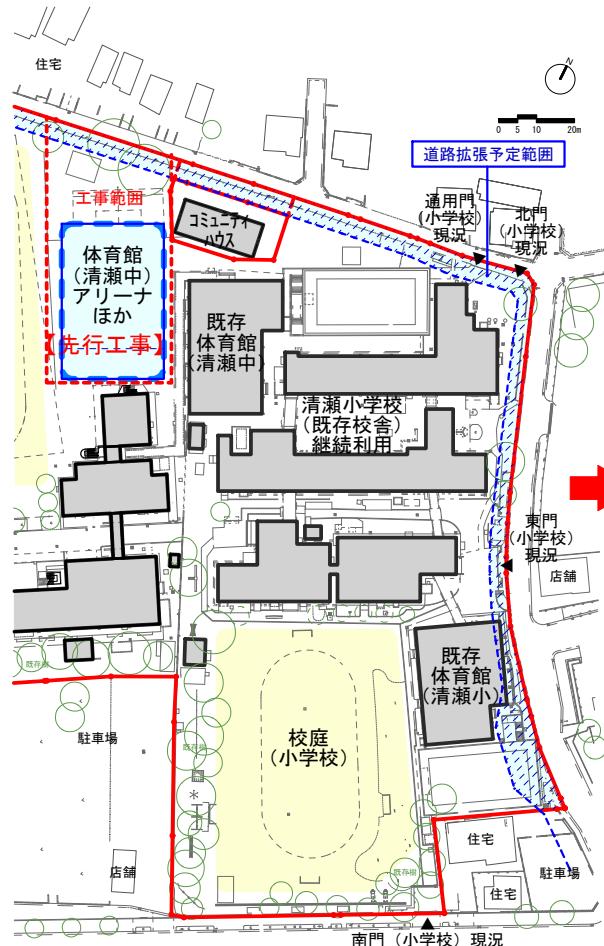
第10课 教室



~~2学年1400m²~~

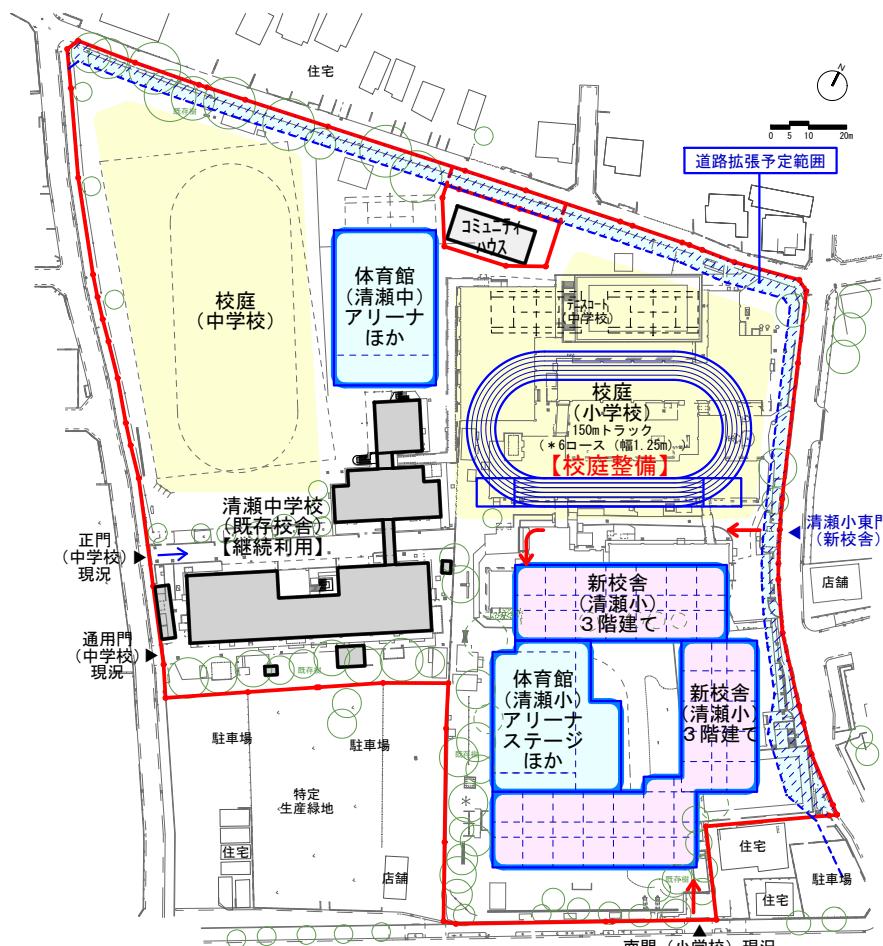
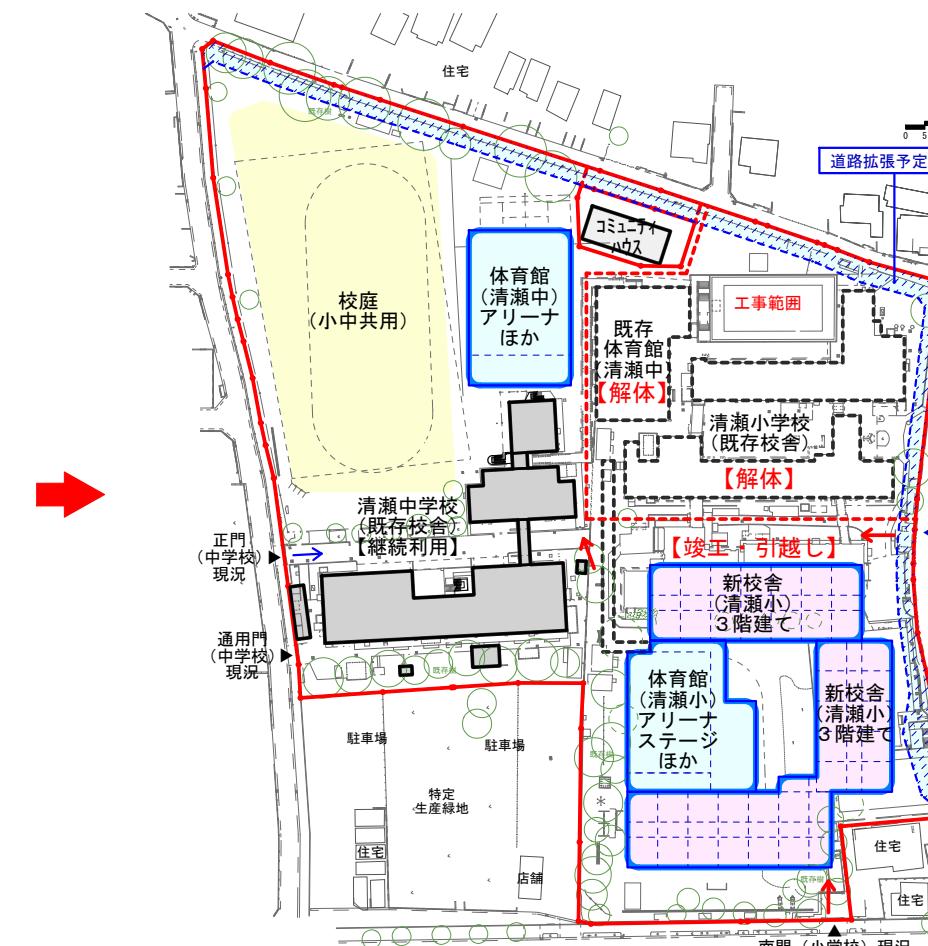
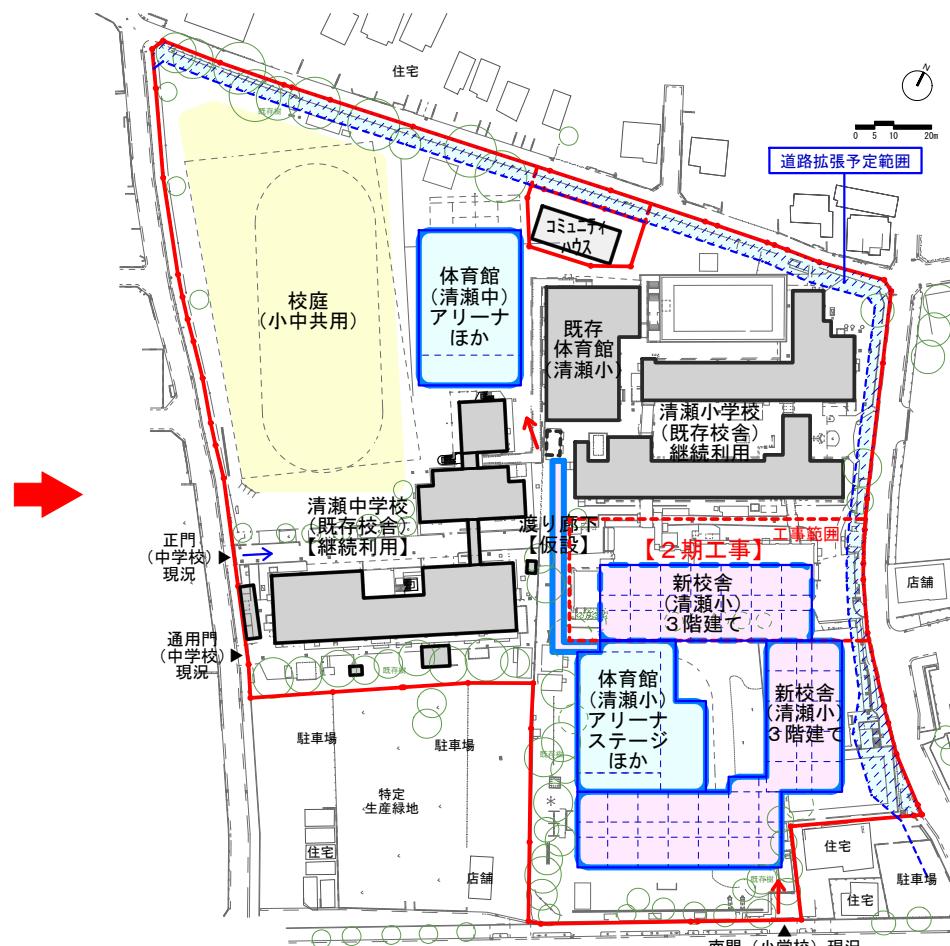
2階ブロックプラン

清瀬新校計画A案（南東配置）建替え手順イメージ



* 解体工事期間中も同様、テニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫を要する)

* 解体工事期間中も同様、敷地内での中学校の校庭の確保が困難
(別敷地での確保、小学校校庭の共用など工夫を要する)

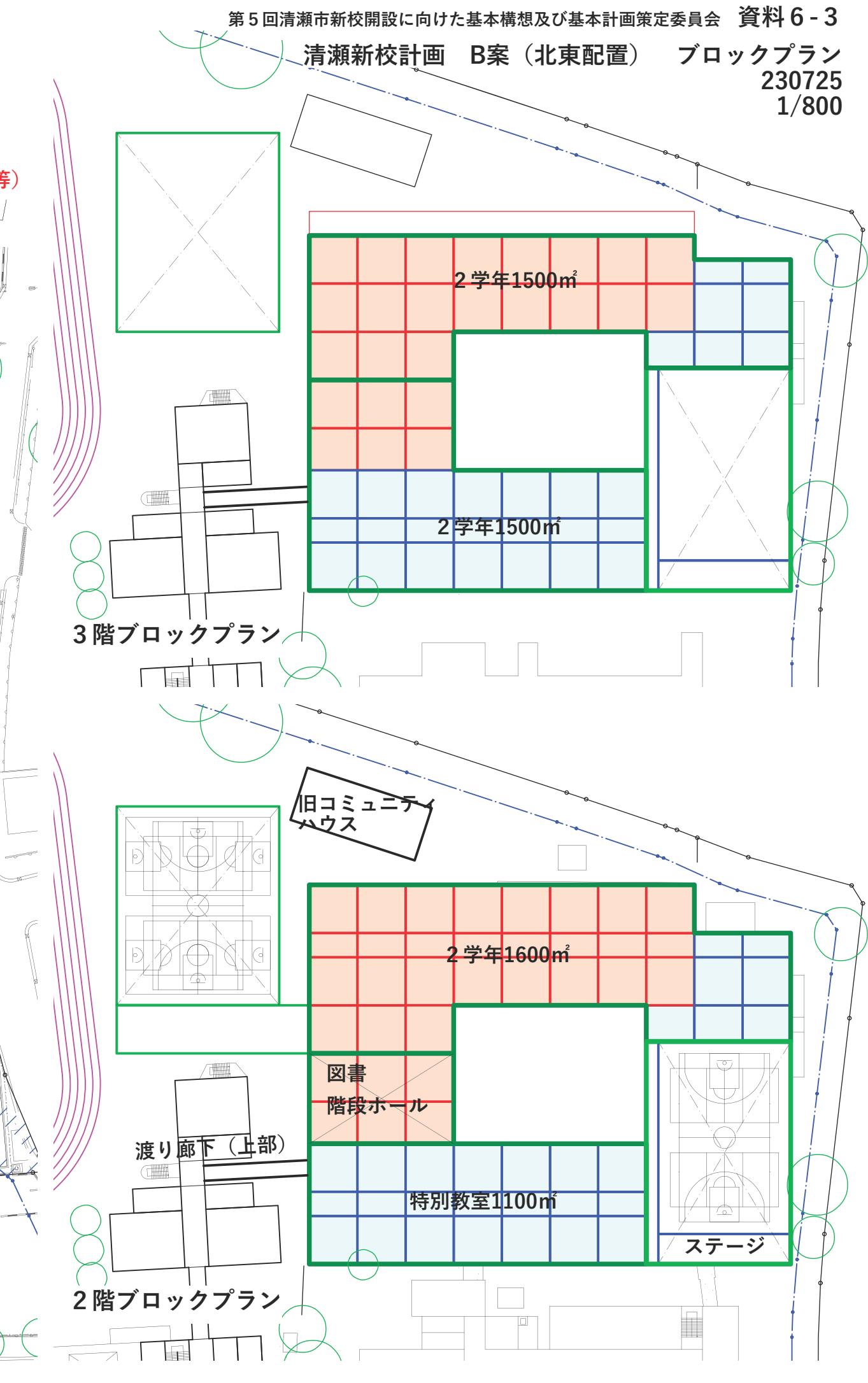
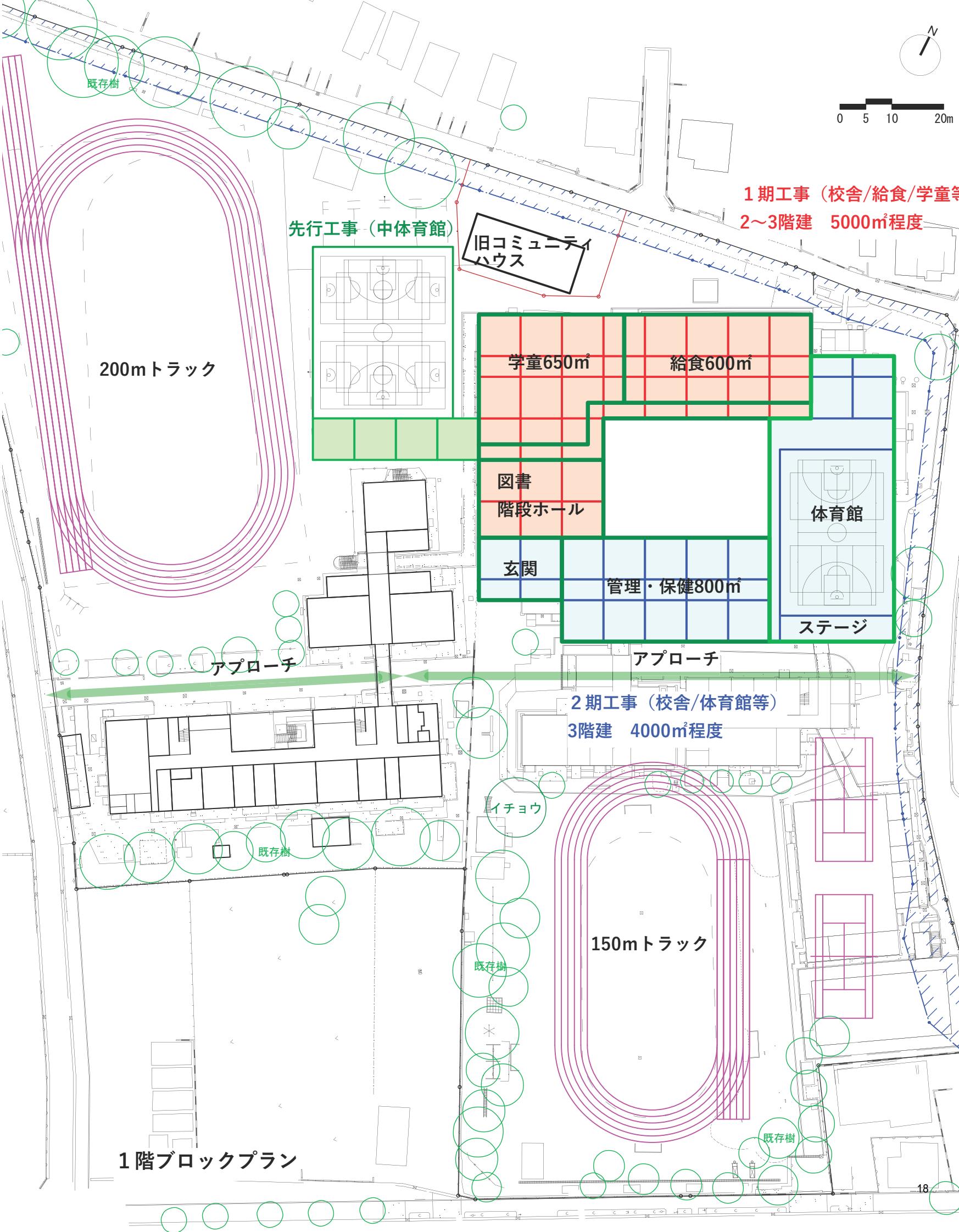


* 2期工事期間中も同様、敷地内での小学校の校庭の確保が困難
(別敷地での確保、中学校校庭の共用など工夫を要する)

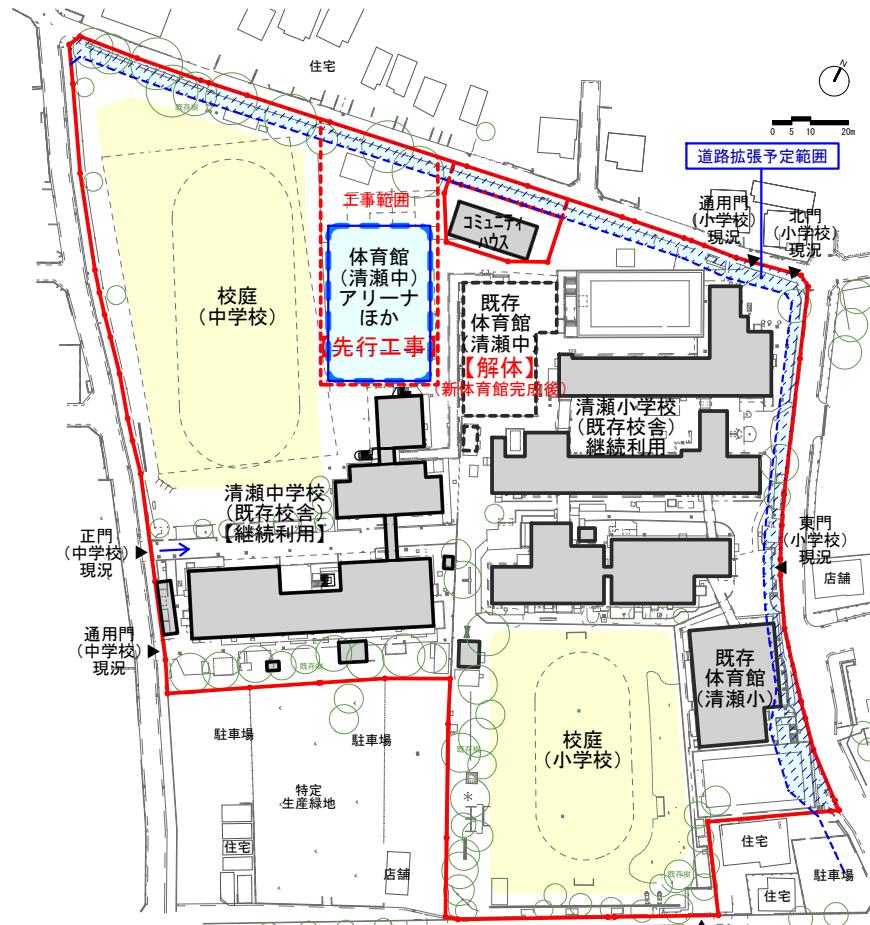
* 解体工事期間中も同様、敷地内での小学校の校庭の確保が困難
(別敷地での確保、中学校校庭の共用など工夫を要する)

* 校庭整備工事中も同様、敷地内での小学校の校庭の確保が困難
(別敷地での確保、中学校校庭の共用など工夫を要する)

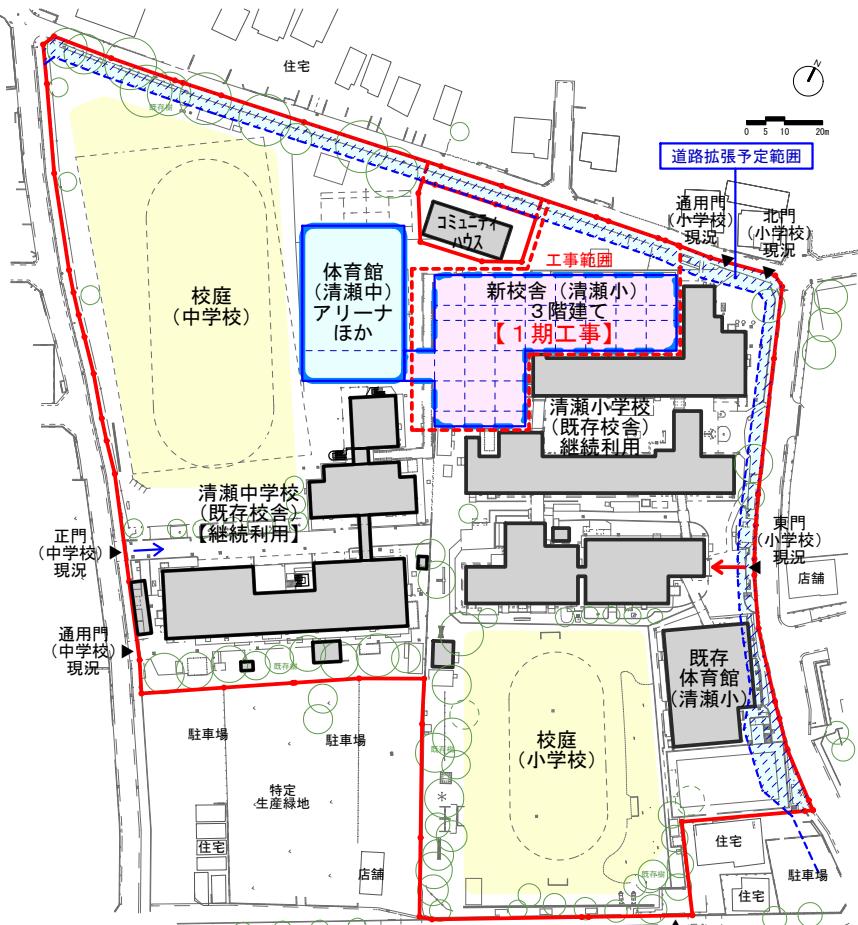
第5回清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会 資料6-3
清瀬新校計画 B案（北東配置） ブロックプラン
230725
1/800



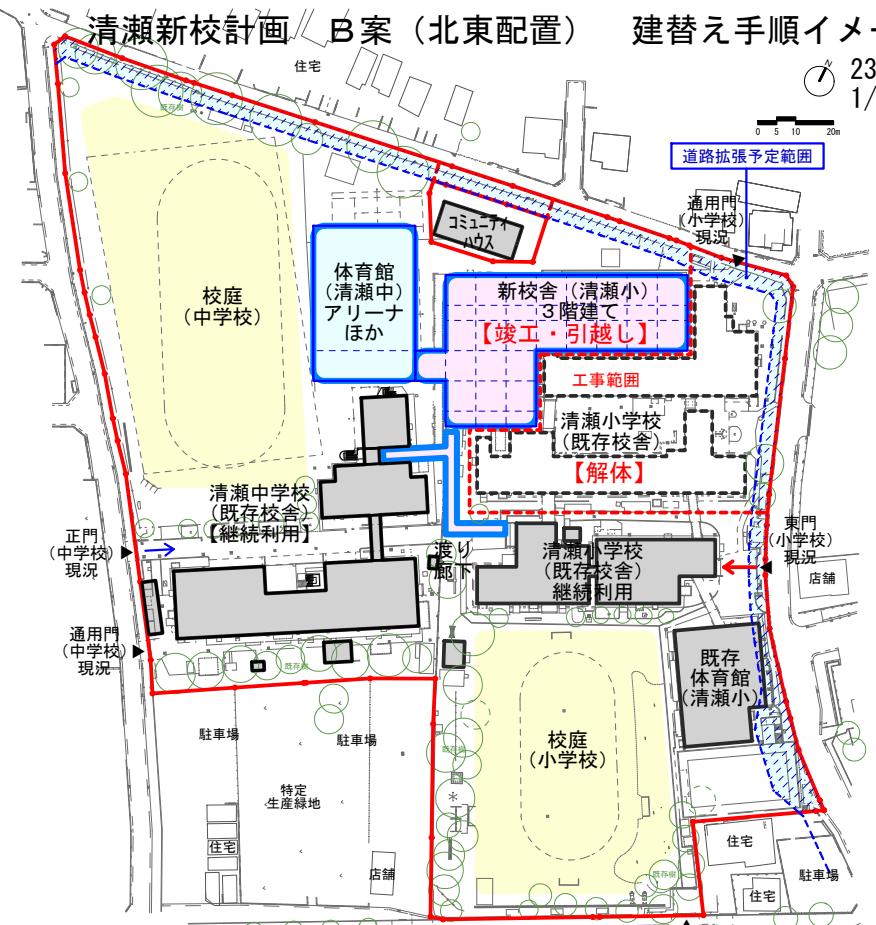
清瀬新校計画B案（北東配置）建替え手順イメージ



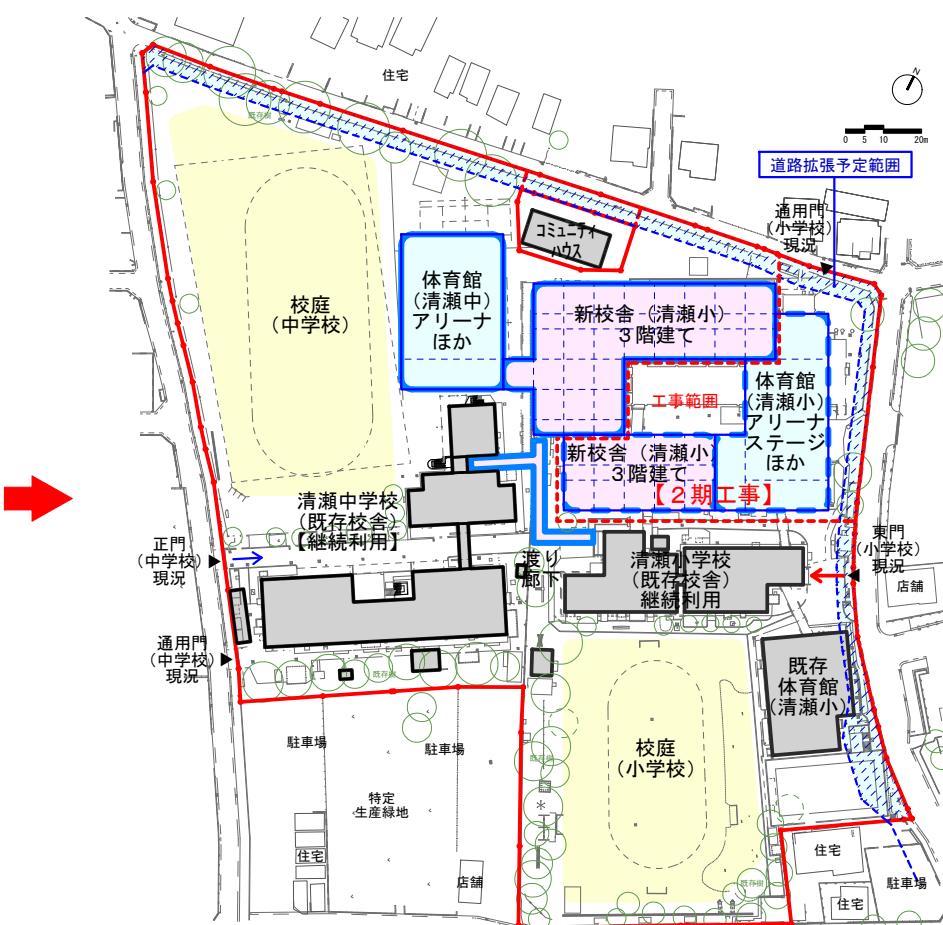
* 工事期間中、敷地内でのテニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)



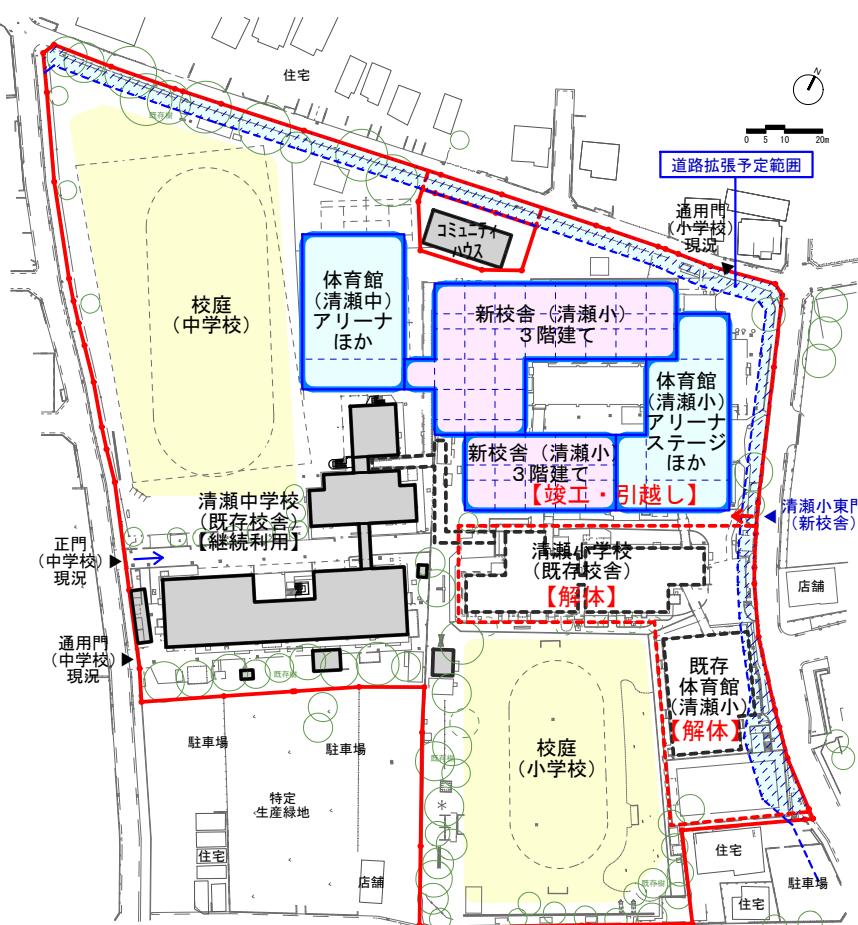
* 工事期間中、敷地内でのテニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)



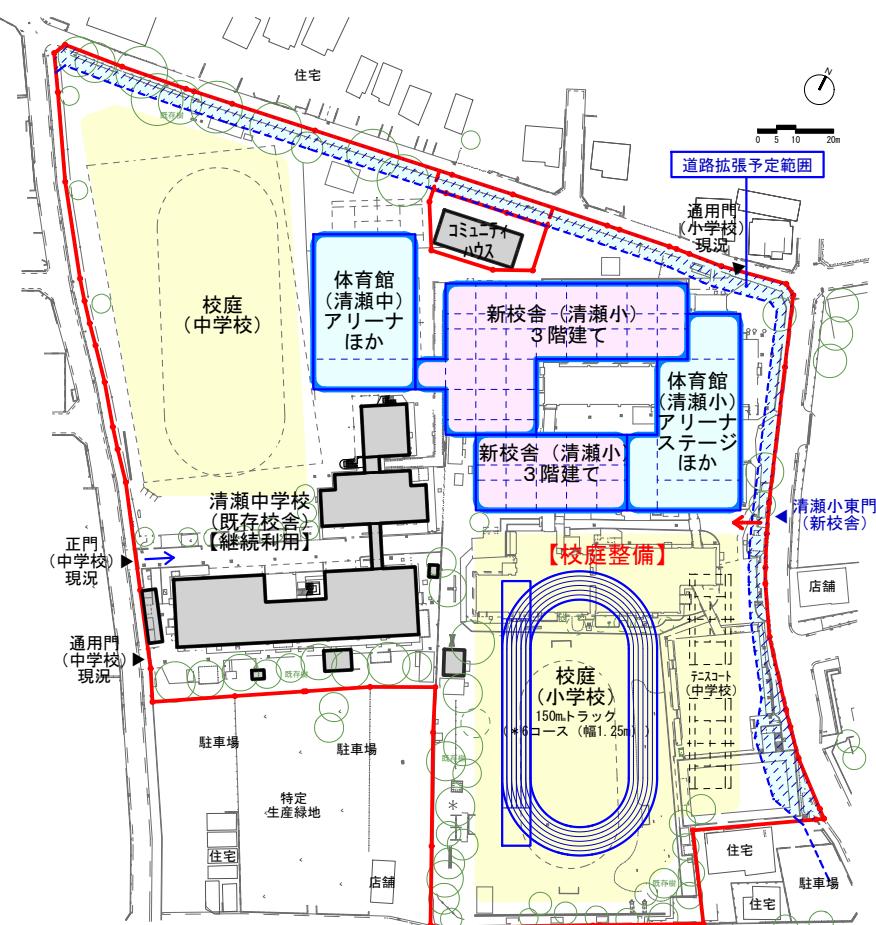
* 解体工事期間中も同様、テニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)



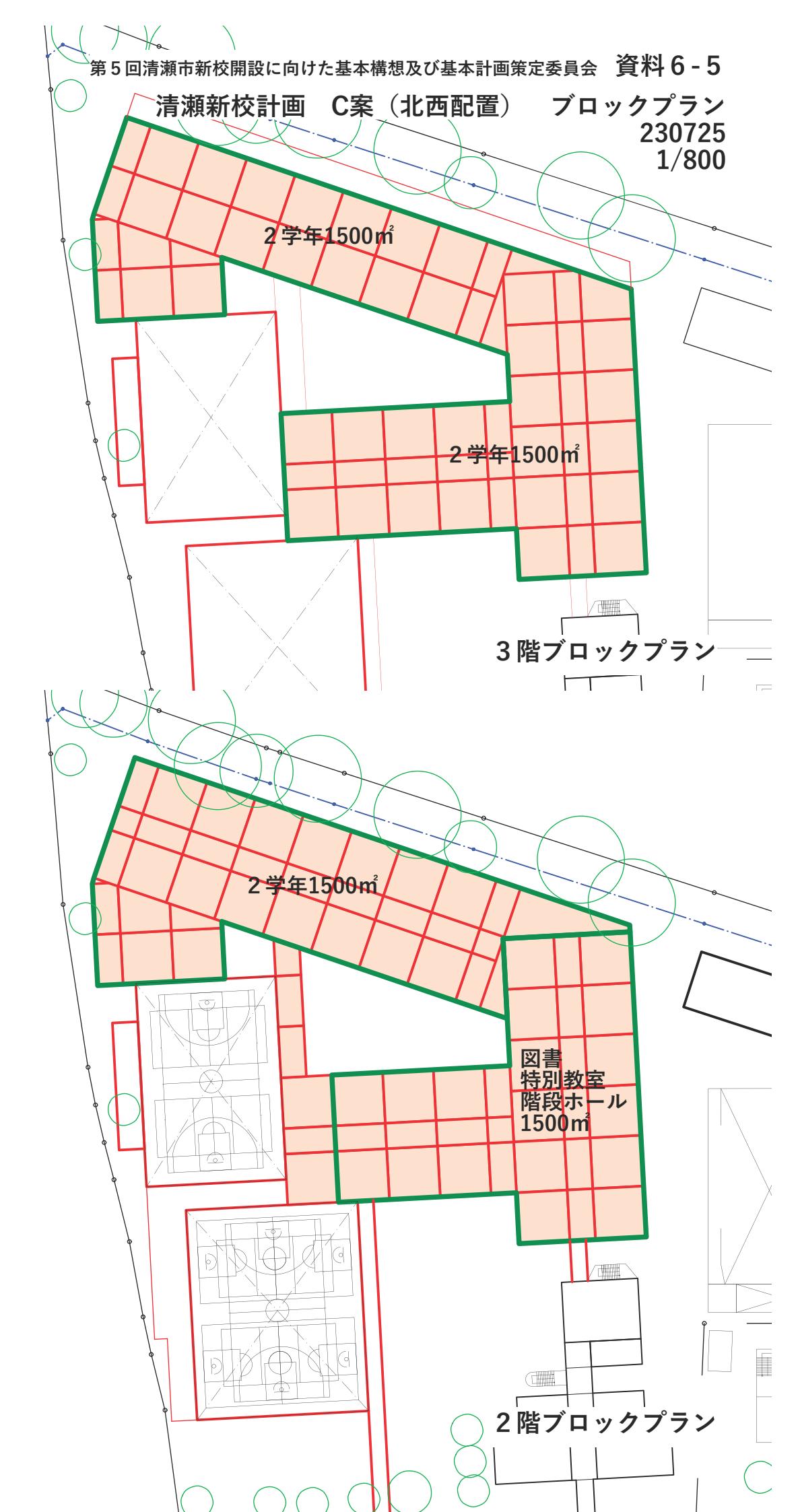
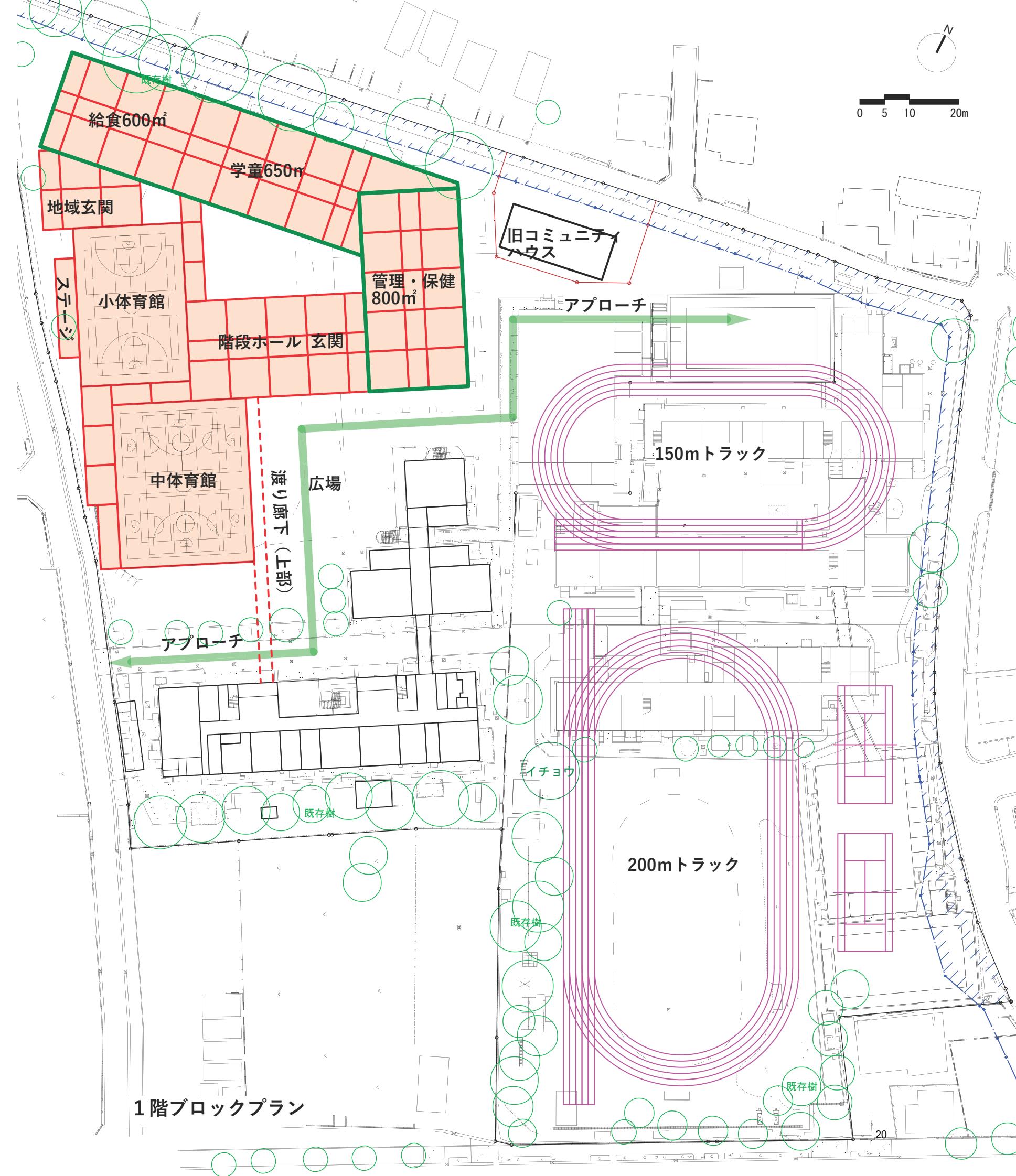
* 2期工事期間中も同様、テニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)

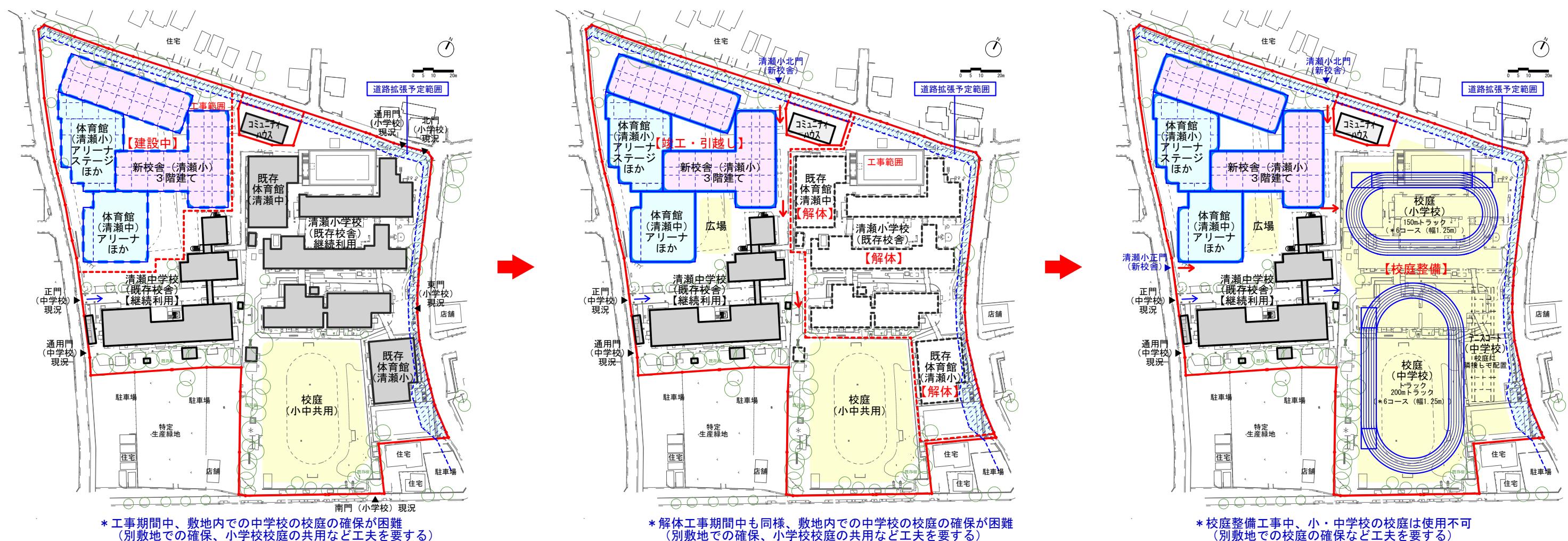


* 解体工事期間中も同様、テニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)



* 校庭整備工事期間中も同様、テニスコートの確保が困難
(別敷地での確保など工夫をする)





建設スケジュールの検討

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画

新しい学校施設づくりの目標（案） －みんなの想いをかたちに－

【学び】…清瀬市の学校教育のフラグシップ施設となる

- 学ぶことが楽しくなる、学校にまた行きたくなる
- 多様な子どもたちが学び合える
- 先進的なテクノロジーで学びの世界が広がる
- 地域の協力の下、教職員が創造的に教育活動に取り組める
- 清瀬中学校と一体的な校地を活かし、小中が協働して高め合える

【生活】…いつまでも心地良く過ごせる、使える

- 一人一人の居場所が見つかる
- 学級や学年の帰属感が感じられ、安心して過ごせる
- 学年や小中を超えたつながりが育まれる
- 動線、収納、給食、トイレ等が快適に利用でき、気持ちよく学びに向かえる

【地域】…地域と学校がつながる

- 放課後も休日も子どもも大人もさまざまな人が気軽に学び合える
- 清瀬の自然や産業、人などの教育財産を学びに活かせる
- 既存樹木や思い出の場所を継承し、計画に活かす
- 清瀬市の顔となる市役所通りの街並みと一体的にデザインする

【安全】…誰でも安全に安心して通える

- 体格や発達段階の違いに配慮し、安全に使える
- 周辺道路に歩道を整備し、登下校時の見守りにICTを活かす
- 学校を安心して地域に開くために必要な防犯機能を確保する
- 災害に強い構造・設備を備え、地域の避難所としての機能を強化する

【環境】…SDGs（持続可能な開発目標）を実現する

- 誰ひとり取り残さない教育環境を整備する
- 脱炭素社会の実現に貢献するゼロエネルギースクールとする
- 永く快適に利用できる維持管理の仕組みをつくる

【共創】…みんなの学校施設はみんなでつくる

- 柔軟な発想で学校のあり方を問い合わせし、100年使える学校施設をつくる
- 開かれた検討プロセスを通してみんなの想いをかたちにする

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定支援業務 第1回清瀬小学校教職員意見交換会議事録（案）	
日 時)	2023年6月26日（月） 14時30分～15時30分
出席者)	清瀬小学校 4名 教育環境研究所（以下、IEE） 野島、根岸（オンライン）、島田（記録）
資料)	第1回教職員意見交換会次第
資料 1	教職員アンケート結果
資料 2	学校施設づくりの目標案
資料 3	計画条件等
資料 4	所要室・面積構成案 (教室まわりの構成、特別支援学級の配置構成、体育館の構成)
資料 5	配置計画案
参考資料 1	清瀬小管理職ヒアリング記録案
参考資料 2	検討案③ 建て替え手順の検討

■教職員意見交換会開催の経緯

○基本計画のスケジュールの共有

- ・清瀬小の建替えに向け、これまでに策定委員会4回、ワークショップ3回の開催、先生方へのアンケートの実施など、学校のみならず地域の方々からも様々な意見を伺いながら計画を進めてきた。今後は、意見を聞く段階から計画の中身を検討する提案段階に移行する。10月頃までに基本計画案を取りまとめ、パブリックコメントで市民の意見を求めて3月までに基本計画を策定する。その後、来年度は設計者を選定し、設計へと移行、令和11年3月までに新校舎建設を進めていく。（IEE）

○教職員意見交換会の意義

- ・施設計画を検討するためには現場の先生方との対話が大事だと思っている。本日の資料や説明内容を他の先生方と共有頂き、多くの意見を参考にして、計画に反映していくべきと考えている。（IEE）
- ・これまでの学校を振り返ると共に、これからの中学校について考えてもらいたい。
- ・新しい学校施設は100年使い続けることになるだろう。学校の未来を見据えた計画としていきたい。（IEE）

○意見交換会の進め方

- ・本日は沢山の資料をお配りしたが、まずは所要室・面積構成（資料4）を中心に意見を頂きたい。（IEE）
- ・現段階では未確定な部分も多く、計画条件（中学校体育館の建替え、仮校舎の有無など）に係わる具体的な内容は、このメンバー内での話に留めておいてほしい。

■学校づくりの目標

- ・どの様な学校施設を目指していくか、アンケートやワークショップ等の意見等を踏まえ、学校づくりの目標を定め、策定委員会にて目標案を提示している。ご一読いただき次回の意見交換

会で先生方の意見を頂ければ有難い。(IEE)

■計画条件 *概要について IEE より説明

- ・整備内容に示した特別支援学級は3教室のみ設置するということではない。学級数で定められる文部科学省の国庫補助基準面積を算定する際の基準として示したものであり、この面積の範囲内では在籍人数が年によって上下することも踏まえて教室構成を提案していきたい。(IEE)

■所要室・面積構成案 *概要について IEE より説明

○学年ユニット・普通教室

- ・発達段階に応じた教室まわり(低・中・高学年)のつくり方についても、意見をお聞きしながら考え方をまとめていきたい。(IEE)
- ・八小との統合により児童数が増え、教室数が年によって変動する場合、引越しが少なくて済むように教室数を設定してほしい。

→学年4クラスが最大となるように8小との統合時期を調整すると聞いている。各学年4クラス対応の教室数を確保しているため学級数が3クラスとなった場合の余裕教室の活かし方が課題となるように考えている。(IEE)

○特別支援学級

- ・特別支援学級のある階では 60 m^2 、他の階では $30\text{ m}^2 \times 2$ 室にするなどの組合せは可能か。また全学年で行う授業があるのでそのための場所(プレイルームのような場所)がほしい。学級は担任数分の教室を設ける必要もある。
- 検討したい。資料4-2のダイヤグラムで示した2学年毎に特別支援学級を配置する案の場合は2室を組み合わせて構成することも考えられると思った。また資料4-4で教室配置の案を複数案示している。学年毎、2学年毎、全学年まとめて1ヶ所に配置するなど様々な配置が考えられる。示した案からどれかを選択してほしいというわけではなく、それぞれの案の課題や利点等、先生方の意見をお聞きしながら、方向性と一緒に考えていきたい。(IEE)

○特別教室

- ・特別教室を2室設ける場合、性格の異なる教室として整備することも考えられる。(IEE)
- ・例えば理科は2室用意しているが、1室は多目的な体験活動室としてSTEAM教育など教科の枠に捉われない活動場所にするということも考えられるかもしれない。柔軟に発想して頂けると大変有難い。(IEE)

○体育館

- ・現状の跳び箱やマットなどは器具庫に収納し切れる大きさと考えてよいか。
- 器具庫の広さは想定だが、現在の器具庫に収納されている災害用備蓄品は別に用意した備蓄倉庫に収納することで、本来の体育器具庫として利用できる広さはあると考えている。(IEE)
- ・体育館を授業で中学校と共有していくのは難しいと思われる。
- 基本的に体育の授業はそれぞれの体育館で行えるようにすることは前提だと思っている、その上でお互いに融通を利かせた使い方もできるように思う。また提案はステージを小学校のみに用意して行事や式典は小学校体育館を主に使う想定として中学校の体育館はステージ分もアリーナ面積に充てるということを提案している。(IEE)

→卒業式や入学式などの調整が大変とは思うが、共用も可能とは思う。

- ・A案ならバレーボールコートが2面取れると考えてよいか。

→そのような提案である。(IEE)

○廊下

- ・部屋自体は広くてよいが、廊下はどの様な広さを考えているか。

→利用頻度なども考慮しながら有効で 2.3m、大通りは 3 m程度確保する場所もあるかもしれない。(IEE)

・現状の廊下は有効 2.0m で狭い。廊下幅があれば、教室から出て作業や相談などの場所が用意できてよい。

- ・オープンスペースとすることで廊下をつくらないことも考えられる。

→オープンスペースを教室まわりの構成に提案しているが、学年のまとまりには通過動線を設けないことで先生のおっしゃるような教育活動が行いやすくなるだろう。(IEE)

■配置計画案 * 概要について IEE より説明

○計画案全般

- ・案によって校舎の形状は変わってしまうか。

→敷地形状によって校舎の形は変わってくるが、各スペースの考え方などは基本的にどの配置でも実現できるように案を検討したい。(IEE)

○校舎

- ・小中を行き来できる案、できない案があると考えてよいか。

→やはり配置によって小中の校舎の行き来が遠くなる場合もある。(IEE)

- ・図書室を校舎の中央に置き、行き来しやすい環境にしたいといった意見もあった。

- ・校舎を 4 階建てにすることもあり得るか。例えば 4 階に理科室を設け、その前に理科テラスなどを設ける等もあり得るのである。

→先生のおっしゃる通り 4 階建てとして屋上を活かしたり、天井が高い気持ちの良い音楽室を用意したりすることは考えられると思う。ただ現時点では上下移動の負荷を考えて普通教室は 3 階までに配置できると良いのではと思っている。(今後の検討次第で 4 階に普通教室を配置する提案もあるかもしれないが)。(IEE)

○体育館

- ・体育館を校舎と一体につくり校庭を少しでも広くできないか。

→校舎と一体で配置することも可能と考えられる。一方で風通しを確保するなどの工夫は必要となるだろう。(IEE)

- ・体育館を地下に配置できないか。

→避難所として考えるとバリアフリーの観点から工夫を要する。以前体育館の下に武道場を半地下に配置し、スロープを設けたことはある。(IEE)

○校庭

- ・現状も人数に見合った広さではない。現状よりも広くなるとはいえ、人数に見合う校庭の広さが必要である。

・小中で校庭を共用することは難しいのではないか。

→工夫は必要だと思うが、例えば大小の校庭を用意して活動に応じて使い分けるということもあり得るのではと思うがどうか。(IEE)

■次回打合せ

・7月28日（金）15時～16時半（予定）

・よろしければ他の先生方にも資料をご覧頂き、7月中旬をめどに先生方の意見が頂けるようであれば、当日までに意見を踏まえた資料をお持ちしたいと考えている。(IEE)

以上

清瀬小学校6年生児童による新校舎で大切にしたいこと調査

清瀬小学校の6年生が新しい学校施設について、学び・生活・地域・安全・環境の5つの視点で児童を対象にアンケート調査等を行い、その結果を踏まえて意見交換を行った。その結果を示す。これに基づき7月11日に教育長、教育委員、教育委員会事務局と6年生との懇談会を行っている。

学び

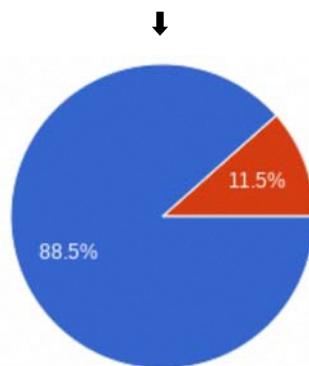
「教科書をデジタル化」

6年1組

1. 現状・問題点

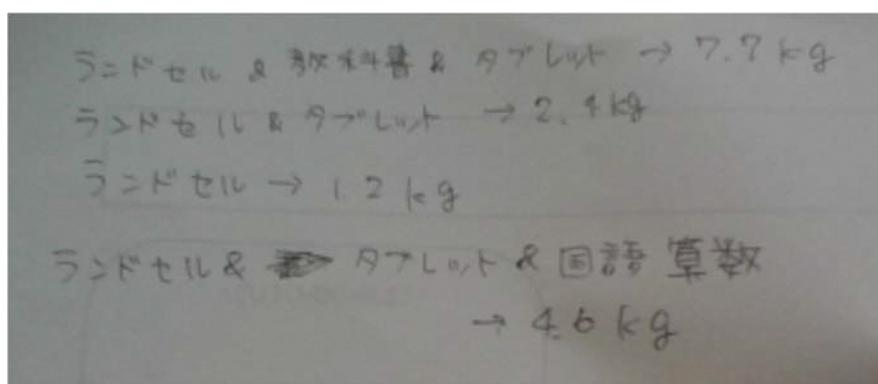
- ・私達はいつも登校するときに、ランドセルが重いと感じることがありました。クラスで26人にアンケートを取った結果、88.5%の人が教科書が重いと感じていることがわかりました。

日々教科書が重いと感じている人の割合



2. 提案

- (1) そこで、私達は教科書を全てデジタル化することを提案します。
- (2) タブレットと教科書全部入れたランドセルの重さは7.7kgになりました。でもタブレットと教科書だけにすれば2.4kgになり5.3kgも減ります。



さらに、教科書を全てデジタル化することによってこのような効果があります。

【効果】

- ・荷物が少なくなって軽い

- ・色々な機能があり、分かりやすい
- ・拡大表示が簡単なおかげで目が悪い人でも見やすい
- ・書き込みが保存できる

3.まとめ

- ・これらの理由で教科書をデジタル化するといいと思います。

「みんなが楽しく集中して学習できる学校」

6年2組

1. 現状・問題点

- ・6年2組の結果からふざけている人がいるから、いないようにするために・・・

2. 提案

- (1) 不要なものを視界から消す。
 - ・目の前に気になる物がなかつたら集中出来るから。
 - ・机の上の物がなくなるので、集中して勉強ができる。
 - ・しっかり先生の話が聞ける。
- (2) 授業の途中でいきなりクイズをだして全問正解をしたらご褒美がもらえる
 - ・全問正解しようと思って、ちゃんと勉強に集中できる。
 - ・楽しく授業をすることが出来る。
 - ・集中できて楽しく勉強もできる。
- (3) 適度な休憩をとる
 - ・頭を切り替える事ができる。
 - ・頭を休めることができる。
 - ・頭を落ち着かせる事ができ、次に切り替えができる。

3.まとめ

- ・このようなことから、授業を楽しくするために適度に休憩を取ったりすると良いと思います。

「みんなが楽しく学習できる学校へ」

6年3組

1. 現状・問題点

- ・楽しく学習できていない。
- ・デジタル教科書を活用できていない。
- ・学習したことを活かせていない。
- ・やる気がない(進んで学習しようとしていないなど)

2. 提案

- (1)もっとタブレットを活用する

1 kahoot!を使って遊び感覚で学習を楽しむ（ゲーム感覚で楽しむ。）

ゲーム 1 スクラッチなどでプログラミングを勉強する。

1 タイピングが上達する。

2 子供が興味を持ちやすい。

2 子供の学習状況に合わせて学習できる。

教育者 2 間違えた問題を、繰り返し学習できる。

2 動画や音声で説明できるため分かりやすい。

2 自動で採点してくれる。

2 親や教員の負担が減る。

2 デジタル教科書を使って、学びをより深めていく

2 1人で学習できる。

2 登下校時の持ち物が楽になる。

楽しい 3 強制力が弱くなってしまうが、だからこそ楽しく学習できる。

デメリット

- ・視力低下や健康面での悪影響がある。

- ・記憶の定着や思考力が低下してしまう可能性がある。

- ・勉強したつもりになってしまい、知識が定着していないことがある。

- ・タブレットで遊んでしまう可能性がある。

(2)ひとつの学習に一つの目標を立てる。

- ・目標があると、それに向かって頑張れる。

- ・目標を立て、成果が出れば、達成感を得てまた頑張ろうという気持ちになる。

(3)学んだことを日常に活かす。

- ・週間と組み合わせる。(生活の中で使う。)

- ・なんのために学ぶのか明確にする。

- ・学習の全体像を把握する。

- ・健康な生活をする。

- ・ハードルは下げられるだけ下げる。

- ・学習時間は、期間内の総量で考える。

- ・学習期間は短く考える。

3.まとめ

- ・タブレットを活用することでゲームみたいな学習アプリで楽しんだり、自主学習などで 教育者の負担が減るなどのメリットが多数あるから、もっと使うべきだと提案する。

- ・目標を立てて、テストで高得点を取り、達成感を得て、また目標を立てて、とやっていけば勉強が嫌いでもやる気が出る、と思う。

- ・学んだことを日常に活かせば、それが習慣になって、あれも学びたいな、これも学びたいな、と自然に学びたい気持ちができると思う。

生活

「きれいな学校」

6年1組

1. 現状・問題点

清小は歴史が長いので、壁や床などがとても汚いことが現状です。
また良い気持ちになれないことが問題点でもあります。
そこで私達は、「きれいな学校」を提案します。

2. 提案

(1) 壁をきれいにするには

- ・壁を張り替える
- ・足跡が残らないような壁にする。
- ・きれいな状態を残したくなるような壁にする。(キラキラ)

(2) 窓をきれいにするには (検討中)

(3) 下駄箱の周りに砂が落ちていないようにするには

- ・下駄箱を新しくする
- ・玄関を広くすることで、靴の履き替えをしやすくする。
- ・学年、クラスごとに下駄箱をつくる。広く使えるようにする。
- ・下駄箱の近くまで、下履きで行けるように場所を広げる。。
- ・下履きで歩ける場所を設ける。履き替える回数を減らす。

3. まとめ

「きれいな学校」にするためには、壁や窓をきれいにしたり、下駄箱の砂をなくすことが必要です!!
また、壁を張り替えたり、窓や下駄箱を新しくすることで、気持ちよく使うことができます!!

「生活しやすい広くてきれいな清小へ」

6年2組

1. 現状・問題点

現在の清瀬小学校は児童の願いが叶っていないところが多いと感じました。なので私達は 6 年生に
「生活していて楽しい・嬉しいと思うこと」のアンケートを取りました。その中でも最も意見が多かった 3 つを提案したいと思います。

2. 提案

(1) 建物を広くする

- ・広々と学校を使える。
- ・部屋がいっぱいできるから児童数を増やせる。
- ・教室が広々と使える

(2) 室内プール

- ・風邪をひきにくい
- ・温度調節ができる
- ・冬でも温水プールにして入れる

(3) 運動しやすい広い芝生の校庭

- ・広いと人とぶつかりにくくなる
- ・大人数で楽しく遊べる
- ・芝生が増えると、けが人が減る

3. まとめ

このようなことからたてものをひろく建物を広くしたり芝生を増やすなど生活しやすい清瀬小学校にするといいと思いました。

「いじめがない、安心して生活できる学校」

6年3組

1. 現状・問題点

今の清小ではいじめ・トラブルなどの対策がしっかりできていないから。

2. 提案

(1) その人の気持ちを理解する

- ・お喋りタイムをする
- ・いじめをされている人のためにカウンセリングを行う。
- ・あいさつ運動や気持ちを伝える運動をする。

(2) 教室

- ・教室内の様子がまわりから見えるよう、壁をなくしてカーテンでしきる。
- ・中が見えるから、いじめが減る

(3) いじめのことを学ぶ

- ・いじめのせいであった事件などを学んだら、どうしていじめはやってはいけないか理解できていじめを止めようと思う
- ・いじめ防止の大切さがわかる

3. まとめ

このようにしっかりとした対策をとることでいじめやトラブルなどを減らすことができ、学校に行きやすいと感じる人が増える。そのため、みんなが安心して学校生活をおくることができる。



地域

「地域の人と交流が多い学校」

6年1組

1. 現状・問題点

- ・地域の人との交流が少ない、地域のことをよく知ることができていない

2. 提案

地域の人との交流をもっと増やす

(1) ボランティアを進んでやる

- ・地域のことがよく分かる（問題とか、大変なこと）
- ・地域の一員として行動する事ができるようになる

(2) 地域の人と楽しめるイベントを行う　学校側から行う・地域のイベントに積極的に参加する

- ・地域の人との交流が深まる
- ・地域ではこんな事ができるとわかる
- ・地域の文化や食べ物などを活かしたイベント

(3) 学校を開放してみんなが遊べるようにしたい（放課後など）

- ・図書室は勉強の場や本を読める場所になる
- ・体育館、校庭はみんなが遊べる場所になる

3. まとめ

- ・清瀬小学校の良さを生かして、他の学校の人や地域の人と、交流できるようにしたいです。
- ・清小にいる人たちに清瀬市のことを探るためにボランティアなどを自分からしてほしいです。

「地域の人とたくさん関わることができる学校」

6年2組

1. 現状・問題点

- ・清瀬小学校と地域の人が関わりにくくなっているのとコロナのせいで行事をあまりやっていない

2. 提案

(1) イベントを行う

- ・みんなが楽しめてハッピーになれる！！！！！！！！！！！！
- ・評判がよくなる

(2) 挨拶をおこなう

効果

- ・知り合いが増える
- ・仲良くなれる
- ・挨拶をしようという気持ちになる

(3) ボランティアを行う

効果

- ・地域がきれいになる
- ・知り合いが増える
- ・評判が良くなる

「地域と関われる学校」

6年3組

1. 現状・問題点

- ・コロナ禍で地域の方々との関わりが少なくなっていた。また、学校行事も少なく地域との関わりを少しでも増やそうと思い、次の二点を提案する。

2. 提案

(1) 行事として出店を出す

コロナ禍があり、地域との関わりが少なくなっているが、最近では新型コロナウイルスも収まってきたおり、他の地域では行事が復活しているところも多くなって来ているため清小でも行事を増やしていきたい。

- ・学校周年行事
- ・清小祭り、などを行う。

(2) 保護者との関わり

保護者の方々が子供の様子が見たいという人が増えてきているため授業参観などを増やす。

- ・説明会の実施。
- ・保護者だけでなく、地域の人達にも来てもらうように呼びかける。
- ・保護者の人たちに楽しんでもらえるようにする。
- ・不審者が入ってこないようにするために手紙を配って知り合いも入れるようにする。

3. まとめ

- ・このことから、私達は、地域と関わりを増やすために、授業参観の時間を増やすことを提案します。
- また、清小まつりなどの行事を再開させることを提案する。

安全

「安全で楽しく過ごせる清小へ」

6年1組

1. 現状・問題点

今の清瀬小学校を見ると渡り廊下は雨漏りしていたり、階段の手すりが一部分しかなかったりと安全ではないところが多くある。安全な学校でないと怪我をしてしまうことがあり、とても危ない。原因は老朽化や清瀬小学校が建てられたときの安全への考え方だと思われる。

2. 提案

(1) 渡り廊下の雨漏り

安全に渡り廊下を渡るために素材を変え、新しくすることを提案する。今の清瀬小学校の渡り廊下は雨の日、何箇所かの穴からたくさん水が落ちてくる。そのため濡れる人が出てきたり、滑って転ぶ人も出てくるかもしれない。その理由からだ。具体的には次のような2つを改善するとよいと考えている。

- ・雨漏りしにくい素材に変える（コンクリートなど）
- ・渡り廊下に壁をつける

この2つをすることで怪我の防止、より良い安全を確保できる。そして清瀬小学校に新しくきた沢山の人達が快適に学校で過ごすことができるようになる。

(2) 遊具のさび

安全に校庭の遊具で遊べるために、鋲びにくい素材（ステンレスなど）に変えることを提案する。今の清瀬小学校の遊具にはたくさんの鋲がある。具体的には次のような5つの遊具を改善すると良いと考える。

- ・鉄棒
- ・太鼓橋
- ・ジャングルジム
- ・滑り台
- ・雲梯（うんてい）

この遊具の素材を変えることで、清瀬小学校に新しくきた沢山の人が安全に楽しく遊べることを考えている。

(3) 階段の手すり

安全に階段の上り下りができるように手すりを全体に設置することを提案する。今の清瀬小学校は階段の手すりが途中までしかなく怪我をしている人などが階段を登るときにとても危ないという理由からだ。具体的には次の点を改善すべきだと考えている。

- ・階段の手すりを上まですべて取り付ける
- ・手すりの数を増やして大勢の人が来ても手すりに掴まれるようにする

この2つのことをすることで階段での事故や怪我が減り、安全に学校内の移動ができるようにな

なると考える。

3.まとめ

今出したもの以外にも安全面で直したほうがいいところはたくさんある。だがそれらを安全なものに変えることでよりみんなが楽しめる安全な学校になると考える。

「病気や怪我がなく、安全に楽しく過ごせる学校へ」

6年2組

1. 現状・問題点

最近、怪我や熱中症などで保健室に行く人を多く見かける。
それらは、熱中症対策がちゃんとしていないことが原因だと考える。
また、防犯意識も薄く、設備がしっかりしていない。
これらのことから、次の3つのことを提案する。

2. 提案

(1) 天井に扇風機をつける

- ・あたる人とあたらない人の偏り（かたより）がなくなる
- ・熱中症対策
- ・下の人にも当たる

(2) 校庭を全部芝生にする

- ・転んでも怪我をしにくくなる
- ・雨の時滑らない
- ・校庭で怪我をするのが多いから芝生にする

(3) ネットランチャーを設置する

- ・不審者が来たとき捕まえられる
- ・手慣れていない人でも簡単にできる
- ・相手が遠くても撃つ事ができる

3.まとめ

このようなことから清小を快適にするためには、このようなものを設置し、安全な清小にすることを提案する。

「防犯・防災意識のある学校」

6年3組

1. 現状・問題点

今の清瀬小学校では、防犯カメラの数が多くはなかったり、避難訓練を真面目にしていない人がいたりしている。このようなことから、私達のグループでは3点の提案をする。

2. 提案

(1) 防犯カメラを今より多く取り付ける

- ・不審者が学校内に入ってきたもすぐわかるように、正門など門・渡り廊下など誰でも入って来れるような場所に防犯カメラを取り付けることを提案する。そうすると、不審者も防犯カメラを見つけ入ってきづらくなるためである。そして、そもそも入ってこないようとする。

(2) 塀をじょうぶにする

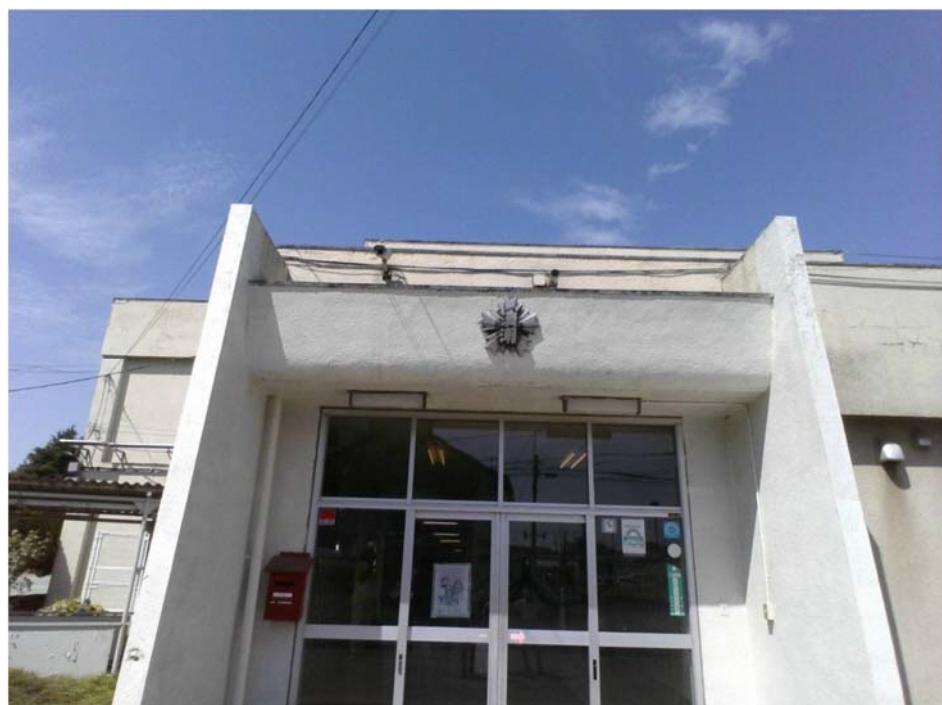
- ・不審者が誰でもとびこえられるような塀だとすぐ入ってきてしまうので、塀が高く頑丈な塀にすることを提案する。入ってきづらくすることで、入ってくる可能性も減り、入ろうとするにも時間がかかり、そのうちに捕まえることができるかもしれない。

(3) 安全に対して意識をする

- ・不審者対応訓練でもう少し緊張感を持ってやれば、もし本当に不審者が入ってきたときに、不審者対応訓練でやったときと同じようにやれば焦らずに避難できると思うので、安全に対する意識をすることを提案する。例えば、先生に言われたことをすぐにしたり、先生がいなくても行動をしたりするというような意識である。本当に起こったときも自分で行動ができるようになる。

3.まとめ

このようなことをすることによって、みんなが安全に勉強や生活ができるようになり、事件が起きても被害者を少なくすることができるかもしれない。そうすれば、良い小学校になると考えられる。



環境

「節電節水、3Rができる学校へ」

6年1組

1. 現状・問題点

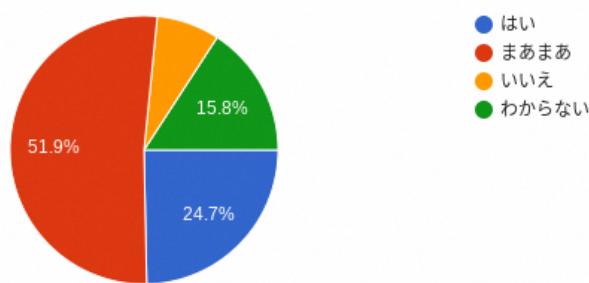
4、5、6年生を対象にしたアンケートを行ったところ、非常に微妙な回答が多く、少しでも節電節水などをできるようにこの提案をすることにしました。

2. 提案

(1) 太陽光発電を利用する

節電(電気の使う量をへらすこと)できていますか？

158件の回答

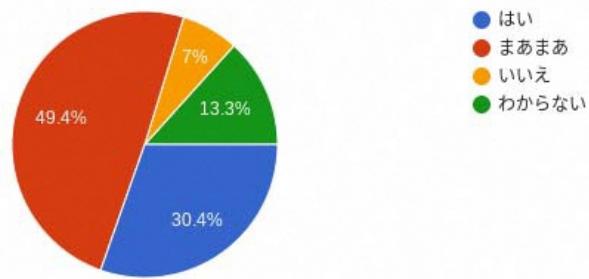


- ・「はい」と言う人が約四分の一しかいない
- ・まあまあが半分以上いる
- ・太陽光発電にすることで電気の使う量を調節でき、無駄使いが減る

(2) 3R(5R)の意識を高める

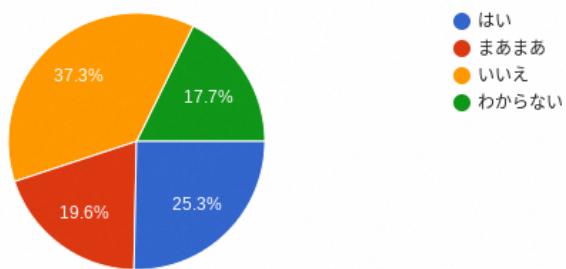
ゴミを発生させないようにしていますか？

158件の回答



「リサイクルボックス」にリサイクルできるものを入れていますか？

158 件の回答



- ・こちらも「ゴミを発生させないようにしている」の回答者が約四分の一しかいない
- ・リサイクルボックスに入れてるかの質問で、いいえの人が多い

(3) 水道を全て自動にする

- ・自動で水が止まるため、節水ができる
- ・使う側も蛇口を回す手間がなくなる

3.まとめ

みんなが過ごしやすい社会にするために、節電や3Rをすることで、ゴミを減らし、きれいで環境に優しい学校をつくりたいです。

「新しい学校の環境」

6年2組

1. 現状・問題点

6年2組にアンケートをとって、学校全体がきたないという結果が出た。すごくきたないと、健康的にも良くないと思ったから。

2. 提案

(1) プールがきたない

- ・プールの清掃員を雇う
- ・温水プールにする →風を引きにくい
- ・室内プールにする →雨でも中でプールができる
- ・水をこまめに入れ替える →常にきれいな水が保てる

(2) トイレ

- ・定期的に清掃員が掃除をしに来る →きれいに
- ・においを消すためのものをおく →トイレに安心してこれる
- ・トイレがきれいな写真と、きたない写真を廊下に貼る →そのようなことで安心できる
- ・トイレの下に尿がたれないように吸い取るものをひく →

(3) 動物の飼育

- ・兎か鶏などを飼う →生き物を飼う学習ができる（観察など）

・飼育委員を作る

→そのようなことで命の大切さが知れる

3.まとめ

このように清瀬小学校が新しくなるためには様々な環境を直し、生活すると過ごしやすくなるのではないかと私達は思った。

「タイトルなし」

6年3組

1. 現状・問題点

少しだけ芝生が生えているがほぼ剥げてきている

清瀬にはたくさんの自然があるにあまり自然と関わっていない

今ある清小のものを有効活用できていない

2. 提案

(1) 校庭全体を芝生化

自然を大切にする学校にするために、校庭全体を芝生化することを提案する。これは、清瀬小学校が新しく建て直されたら身の回りの自然や場所に触れて学習したいという理由からだ。

具体的には、次のようなことから校庭全体芝生化したいと考えている。

- ・環境に優しい
- ・砂が飛ばなくなる
- ・怪我がなくなる

校庭全体芝生化によって、芝生化すると環境に良いなど周りに被害が無い、怪我を無くすことができる。そうすることで、環境やみんなが安全に過ごせるよう考える。

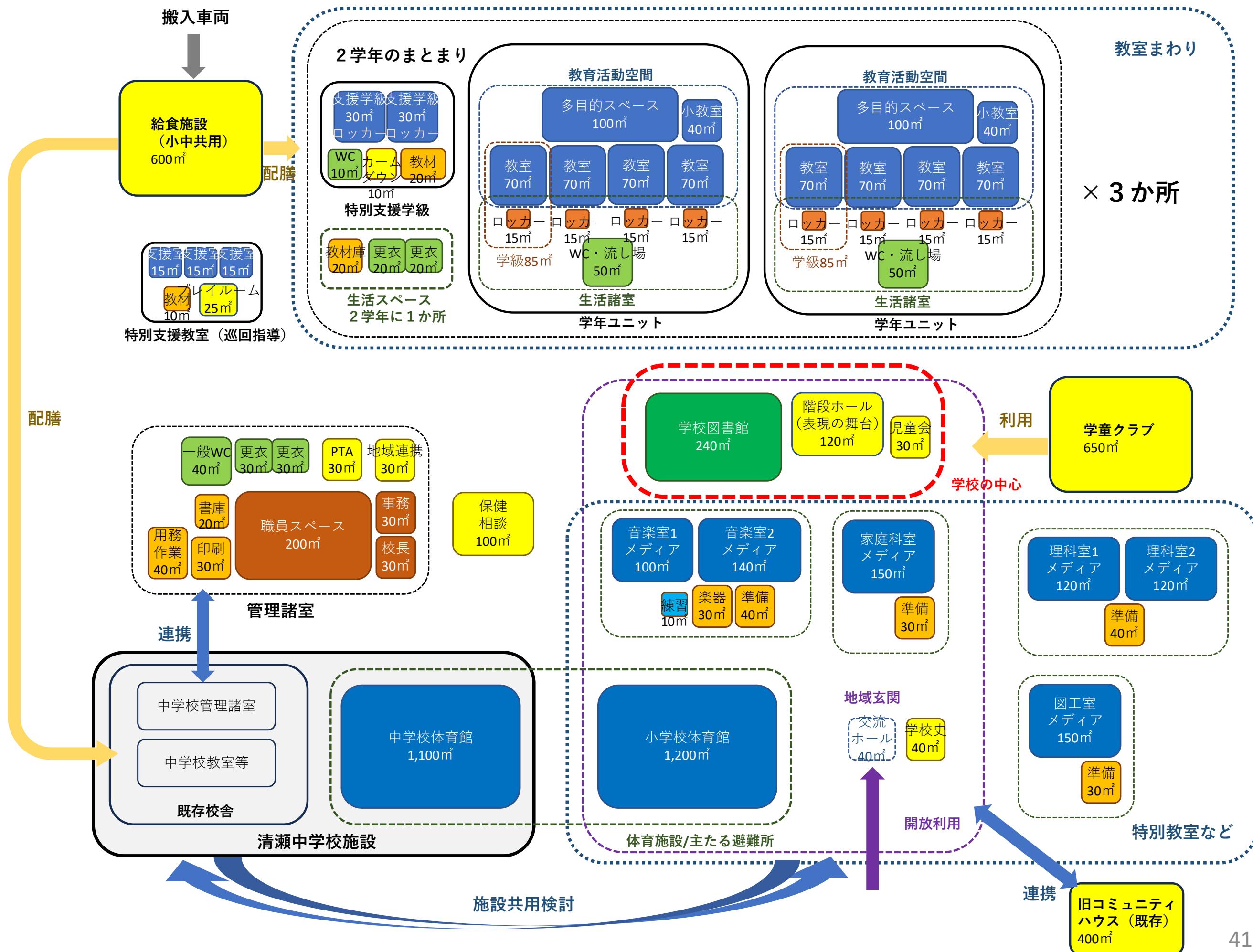
(2) たくさんの自然をつくる

自然を大切にする学校にするために、たくさんの自然をつくることを提案する。

- ・観察や魚を触ったりできる
- ・命の大切さが理解できる
- ・池や川などをつけて魚を育てる
- ・中庭を広くして植物などを育てる

施設構成（案） ダイヤグラム

第5回清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会 参考資料3-1（前回資料4-2）



教室まわりの構成について



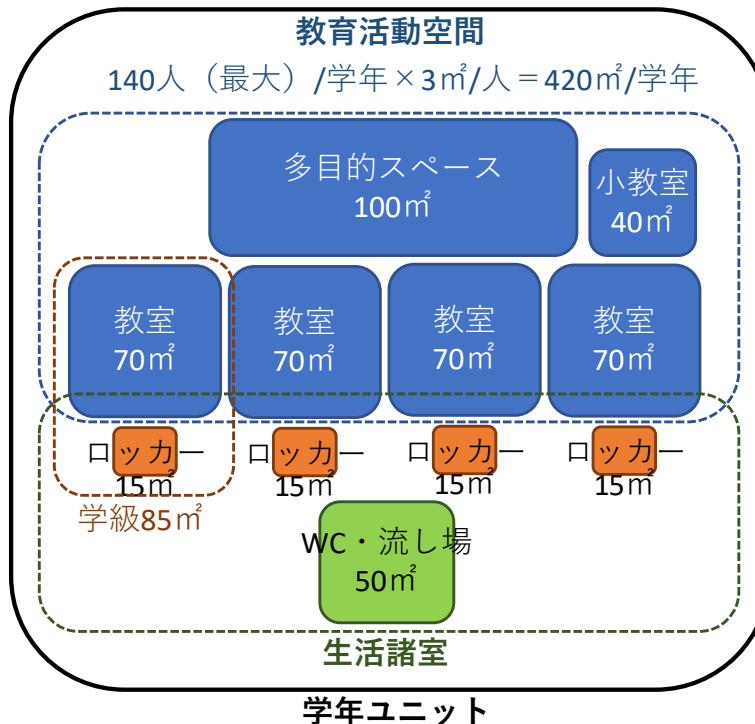
□ICT環境が整った教室例



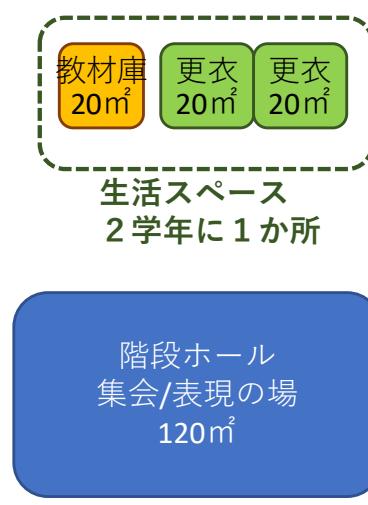
□掲示物が身近に感じられる教室例



□教室空間とは別に設けた児童ロッカースペース例



□居心地も良い児童更衣スペース例



□学年ユニットの考え方（案）

- ・4クラス/学年対応
- ・東京都の習熟度別少人数指導に対応
- ・教育活動空間・生活諸室の両面で施設環境を充実する
- ・教室と多目的スペース、小教室で学習スペースを構成
→個別学習や協働学習、一斉指導、発表などに適した場所で学習スペースを構成する
- ・児童ロッカーは教室と別空間として用意
- ・学年ごとにトイレ、流し場を確保
(2学年集約配置も考えられる)
- ・更衣室と教材庫は2学年毎に用意
- ・発達段階をふまえ低中高学年ごとに特色を持たせる
→どのような特色を持たせるか



□教室と一体化的に使える多目的スペース例



□いつでも発表活動ができる階段ホールの例

特別支援学級の配置構成について

□特別支援学級の配置構成の考え方（案）

A案

- ・学年ごとに1室用意する
- ・学年進行とともに普通学級の児童と同じ場で共に育つ

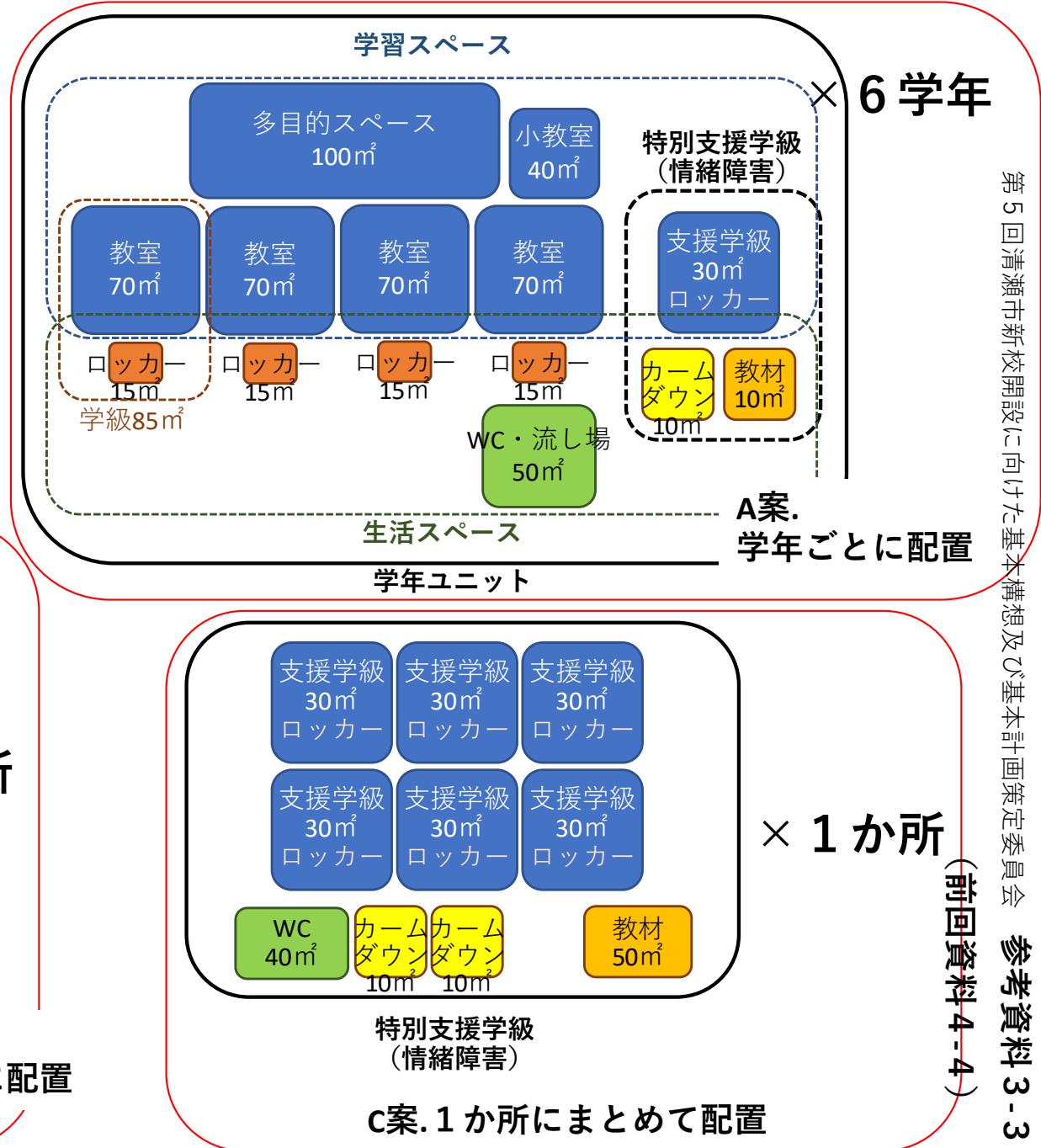
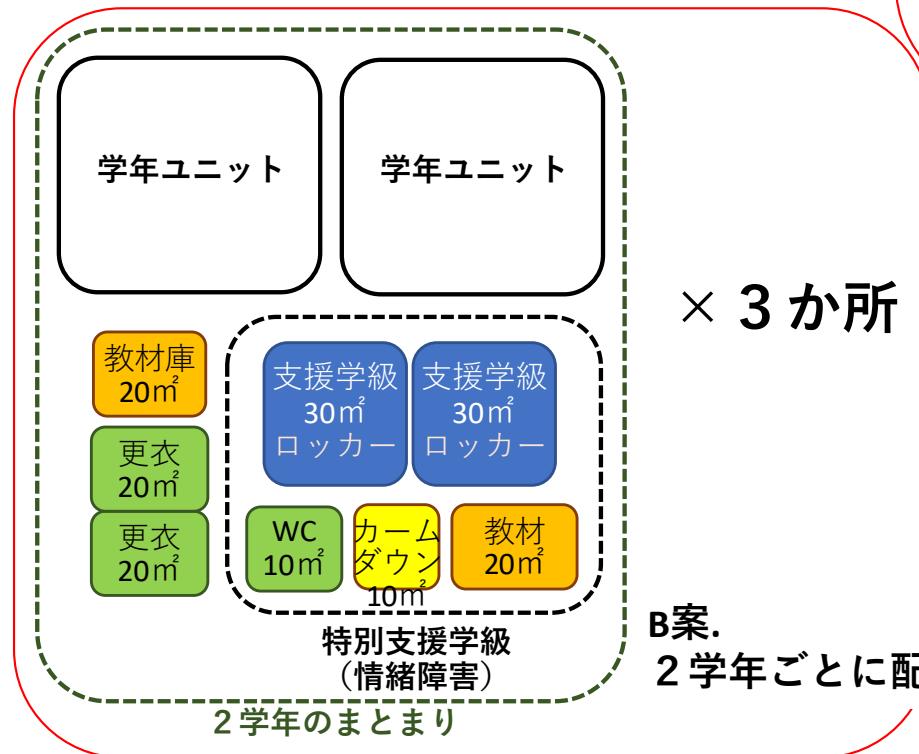
B案

- ・2学年のまとめり（低中高学年）ごとに2室用意する
- ・児童の増減に応じて場所を使い分ける

C案

- ・全校で1か所に集約配置する
- ・学校の中に特別支援の学校がある

※教室構成については次回提案

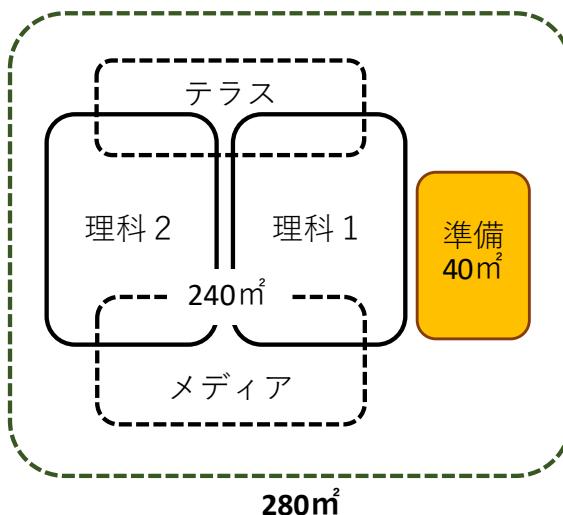


(前回資料4-5)

特別教室の構成について 理科室

□理科室の考え方（案）

- ・理科の世界が体感できる実験スペース、メディアスペースを用意する。
- ・2室をそれぞれ特色ある実験スペースとして構成とする。
例.自然系（生物/地学）
物質系（化学/物理）など
- ・理科分野だけではなく、他の特別教室や図書室などを組み合わせ、教科横断的な探求の場として使えるようにすることも考えられる。



□さまざまなメディアが充実した
理科メディアスペースの例



□さまざまな学習材が整い理科の世界にいつでも
触れられる実験室の例

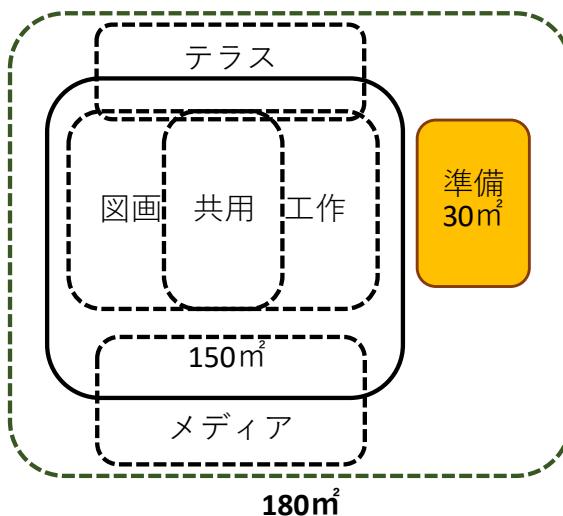


□自然観察が何時でもできる理科テラスの例

特別教室の構成について 図工室

□図工室の考え方（案）

- ・創作活動の意欲が湧くワークスペース、メディアスペースを用意する。
- ・汚れを気にせず活動でき、創作活動に没頭できる作業環境とする。
- ・制作中の作品等が保管できる場所を用意する。



□創作の世界へ誘う図工メディアスペースの例



□活動に応じた環境が用意され、創作意欲が湧く図工室の例



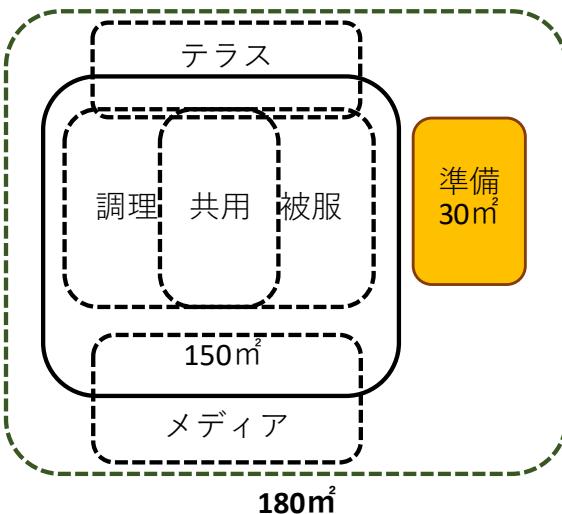
□埃を気にせず作業ができる創作テラスの例

(前回資料4-7)

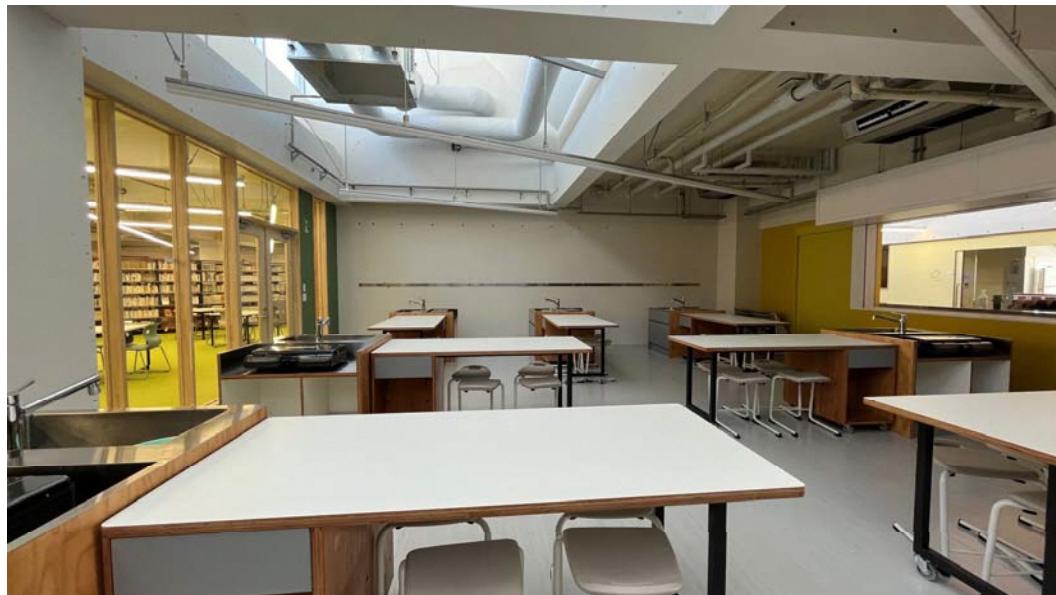
特別教室の構成について 家庭科室

□家庭科室の考え方（案）

- ・調理実習と被服作業がそれぞれ行いやすい構成とする。
- ・実習意欲が湧く家庭科の雰囲気づくりが行えるようにする。
- ・制作中のものが保管できる場所を用意する。
- ・掲示・展示空間を用意する。



□家庭科メディアスペースの例



□固定のキッチンシンクと可動の作業台を組み合わせた例



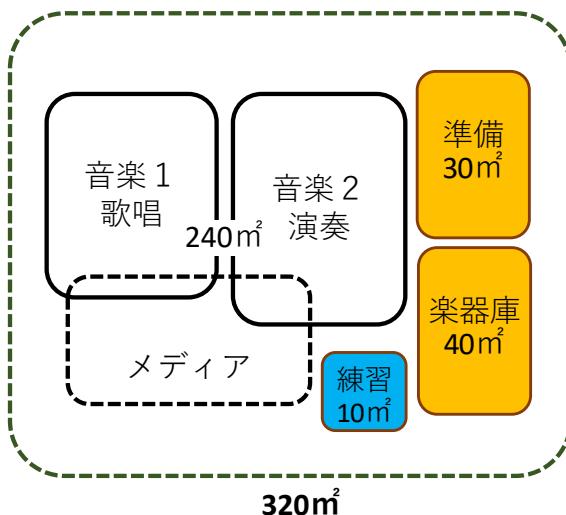
□壁面にキッチンを用意し中央に被服作業ができるスペースを用意した例

(前回資料4-8)

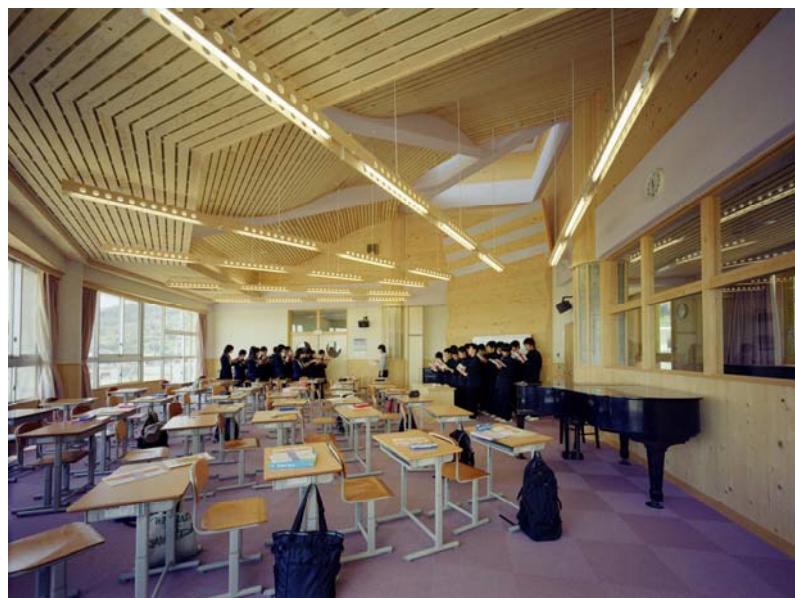
特別教室の構成について 音楽室

□音楽室の考え方（案）

- ・音楽に親しめる音楽室とする。
- ・2室を性格分けて整備することで、多様な音楽活動に適した環境を用意する。
例.歌唱/合唱系、演奏/鑑賞系など
- ・楽器等を整理整頓しやすい環境とする。



□いつでも練習できる音楽メディアスペースの例



□天井が高く、音響に配慮した音楽室の例

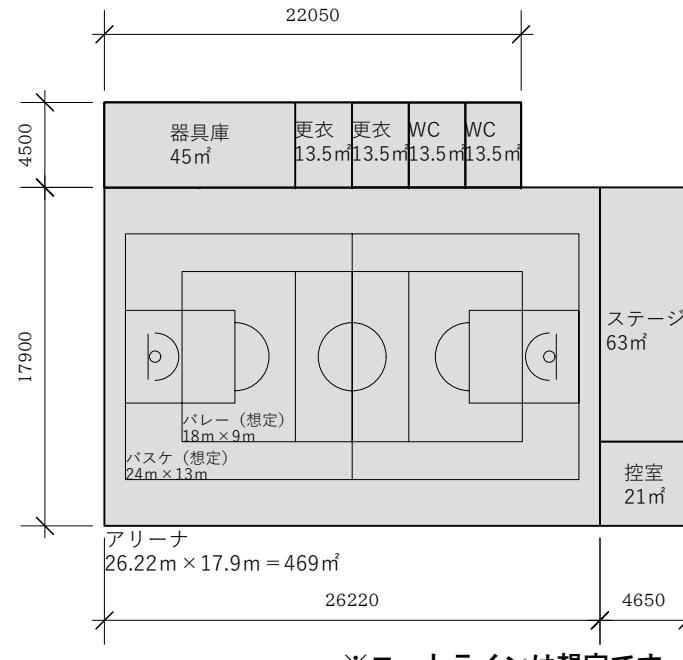


□パート練習もできる練習スタジオの例

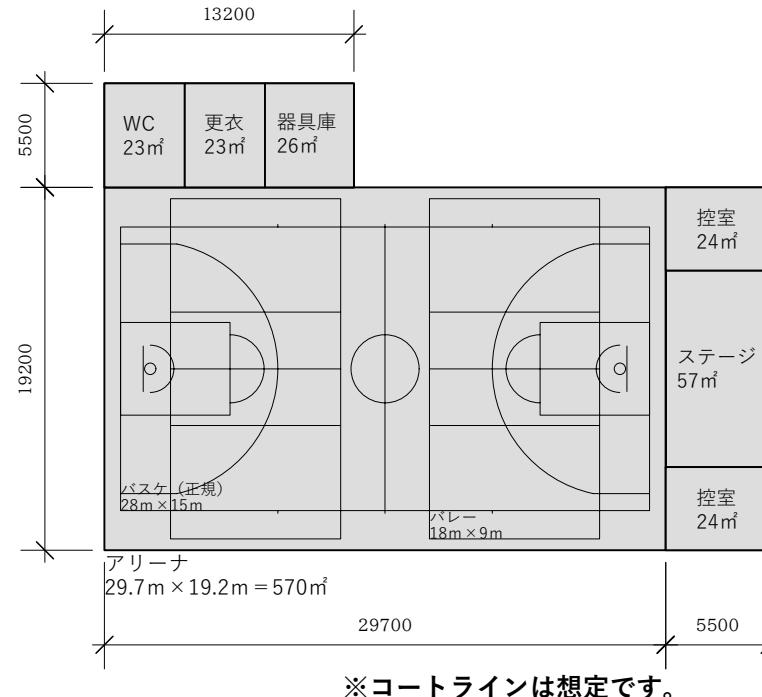
体育館の構成について

○考え方（案）

- ・小中の相互利用を考慮した構成とすること
- ・地域の避難所としても連携した使い方ができるようにすること



□現在の清瀬小学校体育館 652m²



□現在の清瀬中学校体育館 748m²

